

書評 202003



魂の痕(きずあと)

梁 石日 著

河出書房新社

女は、無頼漢に虐待された運命を愛した。だがいま女は、男と、故郷と、決別しようと思う。「血と骨」と一対をなす、実の母親をモデルにした梁石日の小説。『本の時間』掲載を全面改稿のうえ改題、加筆して単行本化。

2020:1./ 270p

978-4-309-02853-8

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/03/01



13歳からのアート思考～「自分だけの答え」が見つかる～

末永 幸歩 著

ダイヤモンド社

6つの作品をめぐる知的冒険が「ものの見方」を一変させる！アートを通して「ものの見方を広げる」ことに力点を置いた授業を展開する中学校美術教師が、「アーティストのように考える方法」「自分のものの見方」を伝える。

2020:2./ 338p,4p

978-4-478-10918-2

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/03/01



涼子点景 1964

森谷 明子 著

双葉社

1964年のオリンピック決定に沸く東京で、競技場近くに住む一人の男が失踪した。娘は自分の居場所と未来を手に入れるため、幸運を味方に生き抜いてゆく。緻密な伏線と謎が心を握めとる長編ミステリー。

2020:1./ 357p

978-4-575-24243-0

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/01



おひなさまの平安生活えほん

堀川 理万子 著

あすなろ書房

ひな祭りの由来やおひなさまの種類はもちろん、知っていそうで意外と知らないひな道具の使い道まで。おひなさまのモデルとなった平安貴族の暮らしぶりもわかる行事の絵本。

2020:2./ 47p

978-4-7515-2959-1

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/01



そのママでいい～発達障害の子を育てるあなたに贈る43のエール～

橋口 亜希子 著

中央法規出版

生活、学校、家族、そして自分のこと。発達障害のある子を育てた著者が、自身の体験したエピソードとともに、今がんばってるママたちに贈るエール。医師・田中康雄からのメッセージも掲載。

2020:1./ 4p,213p

978-4-8058-5996-4

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/01

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、資料No.、ISBNも併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部（課）までお申し付けください。
- 表示価格は2020年4月時点での税抜価格です。



飲んでる薬、多すぎませんか?～正しい薬の飲み方・減らし方～

秋下 雅弘 著

アートデイズ

怖い副作用を起こす薬の飲みすぎ。どうしたら上手に薬を減らすことができるのか。高血圧、うつ病、風邪といった症状別に薬の効果と副作用を解説するほか、効果的な飲み方や薬の減らし方を伝える。Q&A も収録。

2020.2./ 184p

978-4-86119-286-9

本体 ¥1,300+税



産経新聞 2020/03/01



旅の断片

若菜 晃子 著

KTC中央出版

登山の専門出版社の編集者を経て、文筆家としても活躍する著者の旅行記。イギリス、スペイン、インド、スリランカなど、さまざまな国の旅の記憶や広がる思考を、静謐な文章でまっすぐに綴る。

2019.12./ 317p

978-4-87758-803-8

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/01



重慶マニア～人口 3000 万人を超える世界最大の市～(地方都市マニア Vol.1)

近堂 彰一 著

パブリブ

中国国内旅行人気 No.1 のメガシティ・重慶を徹底案内。鉄道、ヘアピンカーブ、火鍋、国民政府史跡など、重慶マニアの著者が、日本人初訪問のスポットや地図に載っていないスポットまで紹介する。

2019.12./ 223p

978-4-908468-40-7

本体 ¥2,300+税



産経新聞 2020/03/01



酒場の京都学

加藤 政洋 著

ミネルヴァ書房

お茶屋・お座敷といった敷居の高い店が多く残る一方で、より庶民的な一杯飲み屋が軒を連ねる京都。随筆や文学作品、ガイドブックや地図などを手がかりに、こうした京都の酒場の系譜を辿る。

2020.1./ 14p,232p,2p

978-4-623-08802-7

本体 ¥2,500+税



産経新聞 2020/03/01、東京・中日新聞 2020/03/15、読売新聞 2020/03/28



中国、日本侵攻のリアル～自衛隊元最高幹部の警告～

岩田 清文 著

飛鳥新社

香港、台湾、次は尖閣奪取! ハイブリッド戦争の脅威-。本当に機能する防衛力とは。世界の変化にあわせて真に戦える体制を創るため組織と人に変革を迫る、陸上自衛隊元トップによる戦慄の戦略シミュレーション。

2019.12./ 192p

978-4-86410-739-6

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/14



シン・ニホン～AI×データ時代における日本の再生と人材育成～

安宅 和人 著

ニューズピック

現在の世の中の変化をどう見たらいいのか? 企業はどうしたらいいのか? 国としての AI 戦略、知財戦略はどうあるべきか? ファクト(事実)に基づき日本の現状を分析し、新たな時代を展望する。

2020.2./ 437p

978-4-910063-04-1

本体 ¥2,400+税



産経新聞 2020/03/14



東大式スマホ勉強術～いつでもどこでも効率的に学習する新時代の独学法～

西岡 竜誠 著

文藝春秋

スマホは、既存の「勉強」における問題を綺麗に解消してくれる素晴らしいツール。受験、資格、英語、暗記…。現役東大生が、誰でも簡単に効率よく勉強できるよう、学習に特化した20の厳選アプリを紹介する。

2020.3./ 176p

978-4-16-391161-8

本体 ¥1,300+税



産経新聞 2020/03/15



看守の流儀

城山 真一 著

宝島社

仮出所した模範囚の失踪、暴力団から足を洗う「G とれ」中に起きた入試問題流出事件…。シャバ以上に濃厚な人間関係が渦巻く刑務所内で起きた5つの事件を描く。刑務官たちの矜持と葛藤がぶつかり合う連作ミステリー。

2019.12./ 340p

978-4-299-00062-0

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/15



できない相談

森 絵都 著

筑摩書房

夫の部屋は掃除しない、余計な金は支払わない、料理は食べきる、サービストークには付き合わない…。ひとがなんと言おうと、わたしはそれを我慢しない。日常の小さな抵抗を描いた小説集。『web ちくま』連載を加筆し書籍化。

2019.12./ 220p

978-4-480-80490-7

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/15



アメリカ民主党の崩壊 2001-2020

渡辺 惣樹 著

PHP研究所

なぜトランプを選び続けるのか。アメリカ民主党が激しく左傾化し、分解(自己溶解)の危機にある。2016年の大統領選でトランプ大統領誕生の可能性を見て取った著者が、今後のアメリカの政治風土の変質を预言する。

2019.12./ 249p

978-4-569-84571-5

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/03/15



山の上の物語～庄野潤三の文学～

上坪 裕介 著

松柏社

ささやかな日常生活を描いて読者を惹きつける庄野文学。家庭生活に潜む不安の影を抽象的に描いたとして高く評価された初期作品から、理想の生活、幸福の文学と評されるに至った晩年の連作までを見据え、庄野文学の本質に迫る。

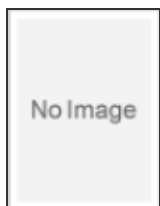
2020.2./ 5p,321p

978-4-7754-0247-4

本体 ¥3,000+税



産経新聞 2020/03/15



最新科学が明かす明和大津波

後藤和久、島袋綾乃 編

南山舎

産経新聞 2020/03/15

2020.1.

978-4-901427-46-3

本体 ¥1,000+税





ビジュアルパンデミック・マップ～伝染病の起源・拡大・根絶の歴史～(NATIONAL GEOGRAPHIC)

サンドラ・ヘンペル 著

日経ナショナルジオグラフィック社

ペスト、インフルエンザ、エイズ、ジカ熱…。20 の感染症を取り上げ、データをもとに感染経路や終息の例、感染地域などをわかりやすく地図化。感染のきっかけ、病原体発見の感動等をストーリーでやさしく紹介する。

2020.2./ 224p

978-4-86313-455-3

本体 ¥2,600+税



産経新聞 2020/03/15、朝日新聞 2020/03/21



パンと牢獄～チベット政治犯ドゥンドゥップと妻の亡命ノート～

小川 真利枝 著

集英社クリエイティブ

チベット人の真意を映す映画を撮り、中国で囚われの身になったドゥンドゥップと、アメリカに渡って家族を養い、夫の釈放を待ち続けた妻は、引き裂かれた10年をどのような思いで過ごしてきたのか。ふたりの数奇な運命を辿る。

2020.3./ 254p

978-4-420-31088-8

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/15、毎日新聞 2020/03/28



綴る女～評伝・宮尾登美子～

林 真理子 著

中央公論新社

「鬼龍院花子の生涯」「天璋院篤姫」…私たちを夢中にさせた「宮尾ワールド」は本当に存在したのか。昭和と平成を駆け抜けた国民的作家・宮尾登美子の横顔と、作品の秘密に迫る評伝。『婦人公論』連載を加筆修正して単行本化。

2020.2./ 7p,220p

978-4-12-005269-9

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/22



総力戦としての第二次世界大戦～勝敗を決めた西方戦線の激闘を分析～

石津 朋之 著

中央公論新社

何が戦いの勝敗を決定するのか。「総力戦」の文脈の下、第二次世界大戦ヨーロッパ西方戦線の個々の戦いを、技術や指導者のリーダーシップ、政治制度や社会のあり方を交えて論述。戦いに関連する博物館や史跡、文学等も紹介。

2020.3./ 474p

978-4-12-005275-0

本体 ¥3,600+税



産経新聞 2020/03/22



科学はこう「たとえる」とおもしろい!

左巻 健男 著

青春出版社

「イワシ雲」のでき方は「味噌汁の味噌の動き」と一緒! 「オーロラ」も「蛍光灯」も光るしくみは同じ! 天気のおもしろから有機 EL まで、自然現象・科学現象を身近なものにたとえて解説する。

2020.2./ 205p

978-4-413-23150-3

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/03/22



わたしのやま

フランソワ・オビノ 著

世界文化社

ここがわたしのやま。わたしはここにすみ、ここでねむり、ここでたべる…。<いのち>の眼で見れば、人間も狼も立場は同じ。ふたりの主人公によって語られる全く同じ物語を、ふたつの解釈で描く。両サイドから読める絵本。

2020.2./ 1冊(ページ

付なし)

978-4-418-20800-5

本体 ¥1,400+税



産経新聞 2020/03/22



安野光雅～自分の眼で見て、考える～(のこす言葉)

安野 光雅 著

平凡社

世界的に高い評価と人気をもつ 93 歳の絵本作家の、「出生の秘密」や戦争体験など 93 年の来し方、独自の絵画論、死について思うこと、心境の変化…。人生の先輩による語りおろし自伝シリーズ。

2019:2./ 108p

978-4-582-74117-9

本体 ¥1,200+税



産経新聞 2020/03/22



絵はがきの時代 増補新版

細馬 宏通 著

青土社

絵はがきの誕生から、旅行と蒐集、消印と投函、ピンポンとの意外な関係、爆発的日本ブームまで、稀少品の数々を紹介しながら世界の絵はがき史をふりかえる。ラファエル・キルヒナーの評伝を加えた増補新版。

2020:1./ 317p

978-4-7917-7241-4

本体 ¥2,400+税



産経新聞 2020/03/22



時をかける台湾 Y 字路～記憶のワンダーランドへようこそ～

栖来 ひかり 著

ヘウレーカ

地層のように積み重なるまちの記憶や人びとの息づかい。右に行こうか、左に行こうか…。台湾の Y 字路から歴史をたどり、忘れられた記憶に耳を傾けた旅を綴る。

2019:10./ 246p

978-4-909753-05-2

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2020/03/22



エンド・オブ・ライフ

佐々 涼子 著

集英社インターナショナル

多くの患者を看取ってきた看護師の友人が癌になった。「看取りのプロ」の死への向き合い方は、意外なもので…。最期の日々を共に過ごすことで見えて来た「命の閉じ方」とは。在宅での終末医療の現場を描くノンフィクション。

2020:2./ 315p

978-4-7976-7381-4

本体 ¥1,700+税



産経新聞 2020/03/22、東京・中日新聞 2020/03/22、日本経済新聞 2020/03/28



去年の雪

江國 香織 著

KADOKAWA

死んだ夫と交信する女性、妻の乳房に執着する夫、自分の死に気づいたタクシ一の運転手。百人を超える登場人物の日常が、自由自在に時空を往還し…。ささやかで壮大な、生と死と人生の物語。『小説野性時代』連載を単行本化。

2020:2./ 276p

978-4-04-108984-2

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/28



体温～多田尋子小説集～

多田 尋子 著

書肆汽水城

仲間 2 人と一緒に新しい会社を作った率子の夫。会社は順調のようだったが、夫はその 2 年あとに死んだ。ある年の命日、仲間たちが率子の家を訪れ…。ままならない大人の恋を温もりのある文体で描いた恋愛小説集。全 3 篇を収録。

2019:10./ 227p

978-4-9908899-2-0

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/03/28



戦後「社会科学」の思想～丸山眞男から新保守主義まで～(NHK ブックス 1261)

森 政稔 著

NHK出版

学問の境界を越えて展開し時代をリードした社会科学に着目。戦後の4つの時期を設定して、それぞれの主題的な時期区分において、社会科学がどのように自分たちに時代を「現代」としてその新しさを見出したかをたどる。

2020/3./ 302p

978-4-14-091261-4

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/29



秋元松代<1> 常陸坊海尊/近松心中物語/元禄港歌(ハヤカワ演劇文庫 49)

秋元 松代 著

早川書房

戦後を代表する劇作家・秋元松代の戯曲集。1 は、東北の民間伝承を背景に、孤児となった少年の懺悔と救済の生涯を描いた芸術祭受賞作「常陸坊海尊」など、全3篇を収録する。

2019/12./ 333p

978-4-15-140049-0

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/29



米中二極時代と日本～我々はいかに生き残るか～

遠藤 滋 著

文藝春秋

本書は、その経験に基づき、米中両国の国民性を論じ、彼らとどう渡り合い、どんな関係を築き上げていけばいいか、また、今後の日本の存在と役割はどういうものになるのかを考察したものである。

2020/1./ 213p

978-4-16-008966-2

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/29



図説ヴィクトリア朝の子どもたち(ふくろうの本/世界の文化)

奥田 実紀、ちば かおり 著

河出書房新社

セーラやアリス、オリバー…。英国児童文学の黄金時代、ヴィクトリア朝の子どもたちはどのような暮らしをしていたのか。子どもたちの教育、食事、楽しみなど、図版をふんだんに使って解説する。

2019/12./ 143p

978-4-309-76289-0

本体 ¥1,900+税



産経新聞 2020/03/29



天才 科学者はこう考える～読むだけで頭がよくなる 151 の視点～

ジョン・ブロックマン 編

ダイヤモンド社

「危険」は証明できても「安全」は証明できない、意見をいくら集めても事実にはならない…。一流の研究者・思想家のみ入会を許されるオンラインサロンの会員 151 人が、「思考力を上げる科学の概念」を解説する。

2020/3./ 498p

978-4-478-10575-7

本体 ¥1,800+税



産経新聞 2020/03/29



ブルーがはばたくとき

ブリッタ・テッケントラップ 著

BL出版

ブルーは、暗い森のおくにひとりで住んでいる鳥。飛ぶことも歌うことも、忘れてしまいました。でもある時から、なにかが変わりはじめ…。ブルーの心の細やかな変化を美しいイラストで描いた絵本。

2020/2./ [26p]

978-4-7764-0934-2

本体 ¥1,500+税



産経新聞 2020/03/29



砂と人類～いかにして砂が文明を変容させたか～

ヴィンス・バイザー 著

草思社

世界で最も重要な固体・砂は、現代文明の土台をなす物質である。人類が砂なしで生きていけなくなるまでに、なにがあったのか。文明を支える砂よりも頑丈な土台はあるのか。一粒の砂から、人類社会の全体像を浮かび上がらせる。

2020/3./ 399p

978-4-7942-2444-6

本体 ¥2,400+税



産経新聞 2020/03/29



職人の手～16 PROFESSIONAL STORIES～

山崎 真由子 著

KTC中央出版

時代が変わっても、人の手にしか生み出せないものがある。ガラスペンから洋傘、江戸文字、鍋、陶工、歌舞伎の床山まで、30?90 代の職人 16 人の取材記。

2019/12./ 221p

978-4-87758-800-7

本体 ¥1,600+税



産経新聞 2020/03/29



江南の発展～南宋まで～(シリーズ中国の歴史 2)

丸橋 充拓 著

岩波書店

中国は、北は草原世界、南は海域世界へと開かれている。長江流域に諸文化が展開する先秦から、モンゴルによる大統一を迎える南宋末までの長いスパンで「海の中国」を俯瞰。栄えゆく姿を、社会の重層性にも着目しつつ描く。

2020/1./

21p,192p,18p

978-4-00-431805-7

本体 ¥820+税



朝日新聞 2020/03/14



敵の名は、宮本武蔵(角川文庫 時-き 46-1)

木下 昌輝 著

KADOKAWA

数々の剣客を斃した宮本武蔵。剣聖と呼ばれた男と戦い、敗れた者たちは、武蔵の剣に、なにを見たのか。7人の敗者たちから宮本武蔵の真の姿を描く。

2020/2./ 352p

978-4-04-109020-6

本体 ¥680+税



朝日新聞 2020/03/14



2030 年世界はこう変わる～アメリカ情報機関が分析した「17 年後の未来」～

米国国家情報会議 編

谷町 真珠 著

講談社

15?20 年程度のスパンで世界情勢の予測を行う米国国家情報会議のレポート。「個人の力の拡大」「権力の拡散」といった 2030 年の世界の構造を決定づけるメガトレンドや、世界の流れを変える要素などについて解説する。

2013/4./ 190p

978-4-06-218376-5

本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2020/03/14



背高泡立草

古川 真人 著

集英社

草は刈らねばならない。そこに埋もれているのは、納屋だけではないから。長崎の島に暮らし、時に海から来る者を受け入れてきた一族の、歴史と記憶の物語。『すばる』掲載を単行本化。

2020/1./ 143p

978-4-08-771710-5

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/03/14



未来をつくる言葉～わかりあえなさをつなぐために～

ドミニク・チェン 著

新潮社

湧き上がる気持ちをデジタルで表現する達人の思考と実践は、分断を「翻訳」してつなぎ、多様な人が共に在る場をつくっていく。気鋭の情報学者が、デジタル表現のこれからを語る。『考える人』連載を大幅に加筆・修正。

朝日新聞 2020/03/14

2020:1./ 206p

978-4-10-353111-1

本体 ¥1,800+税



ハウ・トゥー～バカバカしくて役に立たない暮らしの科学～

ランドール・マンロー 著

早川書房

どれも家庭では試さないでください。元 NASA エンジニアのインターネットコミック作家が、引越しの方法から自撮りのコツ、友だちの作り方まで、「試してはいけない」日常の科学を楽しいイラストとともに解説します。

朝日新聞 2020/03/14

2020:1./ 398p

978-4-15-209909-9

本体 ¥1,600+税



2050年の技術～英『エコノミスト』誌は予測する～

英『エコノミスト』編集部 著

文藝春秋

人工知能(AI)、バイオ、農業、医療、エネルギー、軍事、仮想現実(VR)、拡張現実など 20 の分野を取り上げ、「2050年のテクノロジー」とそれが経済・社会・人間の幸福に与える変化を予測する。

朝日新聞 2020/03/14

2017:4./ 380p

978-4-16-390640-9

本体 ¥1,700+税



にちにいまし～ちょっといい明日をつくる琉球料理と沖縄の言葉～

山本 彩香 著

文藝春秋

沖縄で長年琉球料理店を営み、味と人柄で多くの人を魅了してきた著者が、沖縄の伝統料理と黄金言葉を織り込みながら、人生を豊かに生きる術を語る。ゴーヤーちゃんぷるーやラフテーなどのレシピも収録。

朝日新聞 2020/03/14

2020:1./ 159p

978-4-16-391163-2

本体 ¥1,450+税



銀の猫(文春文庫 あ81-1)

朝井 まかて 著

文藝春秋

嫁ぎ先を離縁され、年寄りの介護をする「介抱人」として稼ぐお咲は、妾奉公を繰り返してきた母親のだらしなさに振り回され、悩む日々。そんな時、「介抱指南の書」を作りたいと、貸し本屋から協力をもとめられ...

朝日新聞 2020/03/14

2020:3./ 355p

978-4-16-791455-4

本体 ¥720+税



ホモ・デウス～テクノロジーとサピエンスの未来～<上>

ユヴァル・ノア・ハラリ、柴田 裕之 著

河出書房新社

人類は不死と幸福、神性を目指し、神のヒト「ホモ・デウス」へと自らをアップグレードする。そのとき、富む者と貧しい者との格差は、創造を絶するものとなる。人類の未来を、かつてないスケールで描く。

朝日新聞 2020/03/14

2018:9./ 265p

978-4-309-22736-8

本体 ¥1,900+税





ホモ・デウス～テクノロジーとサピエンスの未来～<下>

ユ瓦尔・ノア・ハラリ、柴田 裕之 著

河出書房新社

生物はただのアルゴリズムであり、コンピューターが人類のすべてを把握する。生物工学と情報工学の発達によって、資本主義や民主主義、自由主義は崩壊し…。人類の未来を、かつてないスケールで描く。

2018/9./ 284p

978-4-309-22737-5

本体 ¥1,900+税



朝日新聞 2020/03/14



世界を変えた 150 の科学の本

ブライアン・クレグ 著

創元社

全ての時代を通じて、最も鋭敏な知性によって著された本の数々。「ヒポクラテス全集」から「サピエンス全史」まで、自然科学書 2500 年の歩みを豊富なビジュアル資料でたどる。

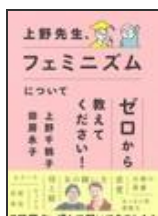
2020/2./ 271p

978-4-422-40045-7

本体 ¥2,800+税



朝日新聞 2020/03/14



上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください!

上野 千鶴子／田房 永子 著

大和書房

フェミニズムって何? 上野千鶴子と田房永子が、セクハラ、出産・育児、セックス、母と娘、女の闘い方、恋愛、夫婦の葛藤、おっさんの想像力などについて語り合う。マンガやイラストなども掲載。

2020/1./ 191p

978-4-479-39332-0

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/03/14



結婚の奴

能町 みね子 著

平凡社

人生を変えるような恋愛だの結婚だのは無理だが、ひとは嫌だ-。ゲイの夫(仮)と、恋愛でも友情でもない生活をつくるまでを綴る。『ウェブ平凡』連載を加筆し書籍化。

2019/12./ 244p

978-4-582-83821-3

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/03/14



いま、解説する戦後ジャーナリズム秘史

柴山 哲也 著

ミネルヴァ書房

長年ジャーナリストとして事件に関わり、その内部を知った著者による戦後ジャーナリズム史。事件の経緯、その内実を明かした後、その事件がいかに現代の社会につながっているのかを読み解く。

2020/1./ 7p,326p,7p

978-4-623-08668-9

本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2020/03/14



経済学者、未来を語る～新「わが孫たちの経済的可能性」～

ダロン・アセモグル、イグナシオ・パラシオス=ウエルタ 編

ダロン・アセモグル、小坂 恵理 著

NTT出版

ダロン・アセモグル、アンガス・ディートン、ロバート・J・シラー…。ノーベル経済学賞受賞者を含む 10 人の経済学者が、ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」に倣って、来たるべき世界の姿を論じる。

2015/1./ 295p

978-4-7571-2335-9

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/03/14



花唄の頃へ(ハルキ文庫 時代小説文庫 い 24-6)

今村翔吾 著

角川春樹事務所

三郎太、蘭次郎、幸四郎、林右衛門の4人は大身旗本の次男、三男。いわゆる部屋住みの身分で、半分無頼の悪仲間であった。ある晩、酒場からの帰り道、剣の達人の三郎太が何者かに腹部を刺され、首をき切られて殺され...

2020:2./ 266p

978-4-7584-4319-7

本体 ¥660+税



朝日新聞 2020/03/14



ワンダーウーマンの秘密の歴史

ジル・ルポール、鷺谷 花 著

青土社

勇敢な彼女は、なぜ生まれたのか? 膨大で緻密な資料分析と関係者への綿密な調査によって、原作者とその周辺を追い、「フェミニズムの心理的プロパガンダ」として構想されたワンダーウーマンのオリジンを明らかにする。

2019:12./ 607p 図版

16p

978-4-7917-7177-6

本体 ¥3,200+税



朝日新聞 2020/03/14



男らしさの終焉

グレイソン・ペリー 著

フィルムアート社

男性が変われば世界全体をより良い場所にできるはず。異性装者でもあるアーティストが、「権力・パフォーマンス・暴力・感情」といった男性性の4エリアを検討し、新しい時代のジェンダーとしなやかな男性のあり方を模索する。

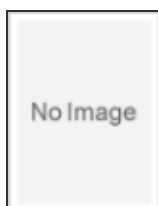
2019:12./ 204p

978-4-8459-1830-0

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2020/03/14



兆民先生(岩波文庫)

幸徳秋水、幸徳秋水 著

岩波書店

朝日新聞 2020/03/21

1960:7./ 108p

978-4-00-331254-4

本体 ¥420+税



人生の1冊の絵本(岩波新書 新赤版 1828)

柳田 邦男 著

岩波書店

絵本には、幼き日の感性の甦りが、こころのもち方の転換が、いのちの物語が、人を見つめる木々の記憶が、そして祈りの静寂がある。約150冊の絵本を解説しながら、その魅力を綴る。

2020:2./ 6p,338p,3p

978-4-00-431828-6

本体 ¥980+税



朝日新聞 2020/03/21



簡易生活のすすめ~明治にストレスフリーな最高の生き方があった!~(朝日新書 750)

山下 泰平 著

朝日新聞出版

明治時代に西洋から入り、密かなブームとなった簡易生活。それは生活を改善し、自分の能力を発揮できる環境を作り上げ、自分の人生を素晴らしいものにする手法。明治の人たちの究極のシンプルライフを紹介する。

2020:2./ 229p

978-4-02-295058-1

本体 ¥790+税



朝日新聞 2020/03/21



ぐっちゃんさんが遺した日本経済への最終提言 177

山口正洋 著

朝日新聞出版

2019 年 9 月に急逝した著者が記した、経済、政治、地方再生、広島カープといったテーマのコラム 177 本を収録する。新井紀子、池上彰の特別寄稿も掲載。『AERA』連載を書籍化。

2020.2./ 343p

978-4-02-331866-3

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/03/21



悪魔の種子(講談社文庫 う5-48)

内田 康夫 著

講談社

秋田・西馬音内と茨城・霞ヶ浦で起こった2つの殺人事件。何百億もの利益を生む「奇跡の米」が狂気と殺意を駆り立てる。「米」をめぐる殺人の真相を求め、浅見光彦が陸奥を奔走する傑作社会派ミステリ。

2015.3./ 444p

978-4-06-293035-2

本体 ¥660+税



朝日新聞 2020/03/21



生まれてきたことが苦しいあなたに〜最強のペシミスト・シオランの思想〜(星海社新書 158)

大谷 崇 著

星海社

「ペシミストたちの王」シオラン。この陰鬱な思想家の思索と執筆は、つねに厭世的なことがらに捧げられてきた。気鋭のシオラン研究者が、彼の言葉と時に批判的に伴走しながらその思想をひもとく。

2019.12./ 349p

978-4-06-515162-4

本体 ¥1,100+税



朝日新聞 2020/03/21



わたしの芭蕉

加賀 乙彦 著

講談社

芭蕉は美しい日本語の世界に遊ぶ楽しみを私に教えてくれた。古典に深く親しんできた作家・加賀乙彦が、芭蕉の句を読み解きながら、日本語の豊かさ、人の生き方、老いと死の迎え方を伝える。

2020.1./ 231p

978-4-06-517431-9

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/03/21



環の影 1(ジャンプコミックス)

中川 海二 著

集英社

天に懸かる巨大な“環”。その影を追い暮らす“影従国”。その小国の安寧の日々は、ある日突然、侵入者の手によって崩れ去る。壮大なスケールと緻密な描写で紡ぐアジアファンタジー巨編開幕!!

2020.3./ 200p

978-4-08-882250-1

本体 ¥600+税



朝日新聞 2020/03/21



210 日ぶりに帰ってきた奇跡のネコ〜ペット探偵の奮闘記〜(新潮新書 850)

藤原 博史 著

新潮社

引っ越しの翌日に、2 匹の兄妹猫が消えた。ペット探偵の著者は、依頼を受けて捜索を始める。ペットと家族をめぐる実話 7 つを紹介。「万が一のための備え」と「捜索ノウハウ」も惜しみなく明かす奮闘記。

2020.2./ 190p

978-4-10-610850-1

本体 ¥720+税



朝日新聞 2020/03/21



移民の経済学～雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか～(中公新書 2575)

友原 章典 著
中央公論新社

移民が増えると、私たちの生活にどのような影響があるのか。雇用や賃金から、経済成長、物価、貿易、税と社会保障、治安・文化まで、経済学の研究成果をもとに分析することで、移民がもたらす「損」と「得」を明らかにする。

2020:1./ 6p,222p
978-4-12-102575-3
本体 ¥820+税



朝日新聞 2020/03/21



日本の条件<7> 食糧(2)

NHK 取材班 著
NHK出版
朝日新聞 2020/03/21

1982:7./ 268p
978-4-14-008280-5
本体 ¥1,200+税



日々是口実(文春文庫 つ 11-26)

土屋 賢二 著
文藝春秋

言い訳の多い生涯を送って来ました-。まさかの骨折や、老人ホームへの入居を決意など、人生にまつわる「口実」を考えるのに、ツチヤ先生の頭は今日もフル回転。ユーモア・エッセイ 60 篇を収録。『週刊文春』連載を文庫化。

2020:2./ 215p
978-4-16-791444-8
本体 ¥630+税



朝日新聞 2020/03/21



タネの未来～僕が 15 歳でタネの会社を起業したわけ～

小林 宙 著
家の光協会

15 歳でタネの会社を起業した著者は、現在高校 2 年生。日本の各地域の伝統野菜を守るため、タネ流通の新しい仕組みづくりを目指す彼が、なぜタネが大事なのか、タネ業界を今後どう変えていこうとしているのかなどを綴る。

2019:9./ 157p
978-4-259-54771-4
本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/03/21



どこでもいいからどこかへ行きたい(幻冬舎文庫 ふ-32-2)

pha 著
幻冬舎

お金と仕事と家族がなくても、人生は続く。東京のすみっこに猫 2 匹と住もう京大卒・元ニートの著者が、どこに住んでどんな風に暮らして、この社会の中をどのように動き回れば楽しく生きられるかについて綴る。

2020:2./ 262p
978-4-344-42951-2
本体 ¥600+税



朝日新聞 2020/03/21



アジールと国家～中世日本の政治と宗教～(筑摩選書 0185)

伊藤 正敏 著
筑摩書房

高野山、比叡山…。天皇を超える権威を誇示し、支配者を持たず、謀叛人を匿い、内裏にも侵入する、寺社と民衆の畏るべき実力とは。世俗の権力の及ばない避難所「アジール」の在り方と意義、盛衰を日本中世を舞台に論じる。

2020:2./ 333p
978-4-480-01687-4
本体 ¥1,700+税



朝日新聞 2020/03/21



折口信夫伝～その思想と学問～(ちくま学芸文庫 オ 30-1)

岡野 弘彦 著

筑摩書房

現実との葛藤を常に抱えながら展開された折口信夫の学問とはいったい何であったのか。最後の弟子が足跡のひとつひとつを確かめながら、折口の内面の真実ををつぶさに描き出す伝記。

2020.2./ 508p

978-4-480-09963-1

本体 ¥1,600+税



朝日新聞 2020/03/21



カラヴァッジョ《聖マタイの召命》～一枚の絵で学ぶ美術史～(ちくまプリマー新書 345)

宮下 規久朗 著

筑摩書房

バロックを代表する画家カラヴァッジョの名画「聖マタイの召命」。この謎の多い絵画に込められたメッセージを受け取ろう。美術をみる目を助ける基礎的かつ普遍的な知識を紹介する。西洋美術史の豊かな世界に誘う一冊。

2020.2./ 190p 図版 16p

978-4-480-68369-4

本体 ¥950+税



朝日新聞 2020/03/21



伝統野菜をつくった人々～「種子屋」の近代史～

阿部 希望 著

農山漁村文化協会

今日の F1 品種につながる固定種野菜を作出し、その品質維持、流通を担った明治から昭和戦前期までの「種子屋」たちの足跡を、経営帳簿・注文ハガキ・種苗カタログなど貴重な一次史料をもとに辿る。

2015.12./ 251p

978-4-540-14195-9

本体 ¥3,500+税



朝日新聞 2020/03/21



社会的処方～孤立という病を地域のつながりで治す方法～

西上 ありさ／出野 紀子／石井 麗子 編

西 智弘／井階 友貴／村尾 剛志／藤岡 聡子／横山 太郎／守本 陽一／森田 洋之 著

学芸出版社

医療をめぐる諸問題の最上流には「社会的孤立」がある。それに対し、薬ではなく「地域での人のつながり」を処方する「社会的処方」。制度として導入したイギリスの事例と、日本各地で始まったしくみづくりを紹介する。

2020.2./ 221p

978-4-7615-2731-0

本体 ¥2,000+税



朝日新聞 2020/03/21



ヴィルヘルム・ハマスホイ～静寂の詩人～(ToBi selection)

萬屋 健司 著

東京美術

19 世紀末から 20 世紀にかけて活動したデンマーク人画家、ヴィルヘルム・ハマスホイ。デビュー作から、最後に描いた室内画まで、画家の創作活動を辿りながら、その人生と同時代のデンマーク美術の一端を紹介する。

2020.1./ 143p

978-4-8087-1147-4

本体 ¥2,300+税



朝日新聞 2020/03/21



原子力市民年鑑<2018-20>

原子力資料情報室 編

緑風出版

原子力にかかわる最新の動向がわかる年報、あるいはデータブック。巻頭論文では、脱原発への諸課題などを取り上げる。データ編では日本の各原発サイトごとの情報と、原発をとりまくテーマ別の状況を掲載。

2020/3./ 331p

978-4-8461-2004-7

本体 ¥4,300+税



朝日新聞 2020/03/21



手のひらの赤ちゃん～超低出生体重児・奈乃羽ちゃんの NICU 成長記録～

高山 トモヒロ 著

ワニブックス

生まれてきたのは、325g の手のひらに収まるぐらいの赤ちゃん。ママは「こんなに早く産んでしまってごめん…」という気持ちで…。芸人・高山トモヒロが、3 家族の低出生体重児との NICU での日々を暖かい視点で描く。

2020/1./ 230p

978-4-8470-9875-8

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/03/21



世界の悲慘<1>(ブルデュー・ライブラリー)

ピエール・ブルデュー 編

荒井 文雄、櫻本 陽一 著

藤原書店

ブルデューと弟子達が、52 のインタビューにおいて、ブルーカラー労働者、農民、失業者などの「声なき声」に耳を傾け、その「悲慘」をもたらした社会的条件を明らかにする。1 は、場所の作用、国家の不作為などを収録。

2019/12./ 491p

978-4-86578-243-1

本体 ¥4,800+税



朝日新聞 2020/03/21



世界の悲慘<2>(ブルデュー・ライブラリー)

ピエール・ブルデュー 編

藤原書店

ブルデューと弟子達が、52 のインタビューにおいて、ブルーカラー労働者、農民、失業者などの「声なき声」に耳を傾け、その「悲慘」をもたらした社会的条件を明らかにする。2 は、正規/非正規労働者の分断などを取り上げる。

2020/1./ p495?1086

978-4-86578-256-1

本体 ¥4,800+税



朝日新聞 2020/03/21



世界の悲慘<3>(ブルデュー・ライブラリー)

ピエール・ブルデュー 編

藤原書店

ブルデューと弟子達が、52 のインタビューにおいて、ブルーカラー労働者、農民、失業者などの「声なき声」に耳を傾け、その「悲慘」をもたらした社会的条件を明らかにする。3 は、多様な談話と「聞き取り」の方法論を収録。

2020/2./ p1089?1533

978-4-86578-257-8

本体 ¥4,800+税



朝日新聞 2020/03/21



新しい目の旅立ち(ゲンロン叢書 004)

プラーブダー・ユン 著

ゲンロン

ポストモダンのバンコクを駆け抜けたカリスマ作家が、「黒魔術の島」で本当の哲学にたどり着く…。フィリピンと日本に渡航した著者が、フィリピンでの滞在について記す。『ゲンロン』連載を単行本化。

2020/2./ 253p

978-4-907188-34-4

本体 ¥2,200+税



朝日新聞 2020/03/21



オーケストラ～知りたかったことのすべて～

クリスチャン・メルラン 著

みすず書房

この小さな会社<オーケストラ>はどのように組織されているのか。基本的問題からちょっと気になる小事まで、楽団員と指揮者のあらゆる情報を満載。主要オーケストラ略歴、世界の主要 400 オーケストラ国別一覧等も収録。

2020:2./ 541p,55p

978-4-622-08877-6

本体 ¥6,000+税



朝日新聞 2020/03/21、東京・中日新聞 2020/03/29



律令国家と隋唐文明(岩波新書 新赤版 1827)

大津 透 著

岩波書店

中国大陸では隋から唐へと王朝が替わり、朝鮮半島からは戦火が迫る。極度の軍事的緊張のさなか、国土防衛と権力集中への模索から、古代日本の律令国家は生み出された。「文明」を継受し、独自の国制を築く過程を描く。

2020:2./ 12p,208p,8p

978-4-00-431827-9

本体 ¥840+税



朝日新聞 2020/03/21、日本経済新聞 2020/03/21



人殺しの花～政治空間における象徴的コミュニケーションの不透明性～

大貫 恵美子 著

岩波書店

美しい桜やバラは、なぜ自らの命を大義のために捧げることを強いるプロパガンダの道具になったのか。コミュニケーションの不透明性と複雑さが「人殺しの花」を生み出していく仕組みを、様々な事例を通して解き明かす。

2020:1./

10p,273p,35p

978-4-00-024542-5

本体 ¥3,000+税



朝日新聞 2020/03/28



黄犬交遊抄

ドナルド・キーン 著

岩波書店

著作活動や訳業を通じて日本文学を世界に紹介し続けたドナルド・キーン。三島由紀夫、安部公房ら日本を代表する綺羅星のごとき知性との交遊を軸に、96年の美しい生涯を、エッセイ・講演録で振り返る。

2020:2./ 5p,261p,3p

978-4-00-061388-0

本体 ¥2,600+税



朝日新聞 2020/03/28



朔と新

いう みく 著

講談社

「伴走者になってもらいたいんだ」 事故で視力を失った兄・朔は、走ることをやめた弟・新に告げる。かくして兄と弟は、一本のロープを握り、コースへと踏み出してゆく。ブラインドマラソンは、兄弟の絆をつなぎ止めるのか。

2020:2./ 287p

978-4-06-517552-1

本体 ¥1,500+税



朝日新聞 2020/03/28



大雪物語(講談社文庫 ふ 38-17)

藤田 宜永 著

講談社

記録的な積雪に見舞われた K 町。想定外の雪が奇跡の出会いを生む…。孤立した町に派遣された自衛隊員が予期せぬ人を見かける「わだかまり」など、著者自らの罹災体験を基に描く短編 6 編を収録。

2019:12./ 307p

978-4-06-518101-0

本体 ¥660+税



朝日新聞 2020/03/28



物語パリの歴史(講談社現代新書 2560)

高遠 弘美 著

講談社

どの街角でも歴史に出会う街、パリ。パリの起源・ローマ時代、百年戦争とジャンヌ・ダルクの登場、フランス革命、パリ万国博覧会…。書物と実際の経験上著者が見聞きしたパリの歴史と魅力を描く。

朝日新聞 2020/03/28

2020:1./ 282p

978-4-06-518753-1

本体 ¥1,000+税



意識のリボン(集英社文庫 わ 17-1)

綿矢 りさ 著

集英社

母を亡くした 20 代半ばの真彩は交通事故に遭ってしまう、激痛の中、目を開けると自分の身体を見下ろして!? 娘、妻、母-。様々な女性の人生に寄り添うように心の動きを描き切る短編集。全 8 編を収録。

朝日新聞 2020/03/28

2020:2./ 206p

978-4-08-744077-5

本体 ¥500+税



愛さずにはいられない

藤田 宜永 著

集英社

赤裸々、どこまでも赤裸々?。この女に、殺されてもいい。僕は本気でそう思った。直木賞作家が綴る激しい愛の青春記。『小説すばる』掲載の「僕を巡る女たち」を大幅に加筆して刊行。

朝日新聞 2020/03/28

2003:5./ 605 p

978-4-08-774645-7

本体 ¥2,000+税



恋しい女

藤田 宜永 著

新潮社

抱いても抱いても手に入らない。この切なさは何なのだろう? 「セカンド・ヴァージン」とも言うべき愛を知らない娘。捉えどころのない女心に憑かれた現代のドンファンを描く、恋の新しいバイブル。『週刊新潮』連載を纏める。

朝日新聞 2020/03/28

2004:8./ 555 p

978-4-10-411704-8

本体 ¥2,100+税



日本文学を読む・日本の面影(新潮選書)

ドナルド・キーン 著

新潮社

二葉亭四迷から大江健三郎まで近現代の作家 49 人の作品を読み込み、文学史的定説とは一線を画した多くの発見と発掘に満ちた名著「日本文学を読む」を復刊。併せて、単行本未収録の名講義「日本の面影」も収録。

朝日新聞 2020/03/28

2020:2./ 394p,4p

978-4-10-603851-8

本体 ¥1,900+税



奈緒と私の楽園

藤田 宜永 著

文藝春秋

50 歳の音楽プロデューサー、塩原達也のもとを訪ねてきた 29 歳の川原奈緒。セックスは苦手と言いながら、俳優と不倫経験があり、男友達と 2 人で旅行にも出かけてしまう。理解できない奈緒の言動に達也は心を奪われるが…。

朝日新聞 2020/03/28

2017:3./ 254p

978-4-16-390621-8

本体 ¥1,680+税





浮遊霊ブラジル(文春文庫 つ 21-3)

津村 記久子 著

文藝春秋

初の海外旅行を前に急逝した私。幽霊となって念願の地をめざすが…。表題作をはじめ、2013 年川端康成文学賞受賞作「給水塔と亀」など、卓越したユーモアと鋭くも優しいまなざしで人々を描いた全 7 作を収めた短篇集。

2020.1./ 181p

978-4-16-791421-9

本体 ¥660+税



朝日新聞 2020/03/28



白の闇(河出文庫 サ 6-1)

ジョゼ・サラマーゴ 著

河出書房新社

突然の失明が巻き起こす未曾有の事態。運転中の男から車泥棒、篤実な目医者、美しき娼婦へと、「ミルク色の海」が感染していく…。ノーベル賞作家が「真に恐ろしい暴力的な状況」に挑み、世界を震撼させた長篇。

2020.3./ 421p

978-4-309-46711-5

本体 ¥1,300+税



朝日新聞 2020/03/28



最期の言葉の村へ～消滅危機言語タヤップを話す人々との 30 年～

ドン・クリック 著

原書房

いかにして古代からの言葉が消えていくのか。西欧文明が村から奪っていったものとは-。パプアニューギニアの村ガプンの人々と寝食を共にし、ネイティブ原語を 30 年間にわたり調査してきた言語人類学者によるルポルタージュ。

2020.1./ 329p

978-4-562-05720-7

本体 ¥2,700+税



朝日新聞 2020/03/28



炭鉱と美術～旧産炭地における美術活動の変遷～

國盛 麻衣佳 著

九州大学出版会

日本の近代化を支えた石炭産業。坑道での恐怖や不条理を描いた炭鉱夫たちの作品と、そこに込められた想いを読み解き、衰退する産炭地に生まれたアートプロジェクトの展開と意義を考察する。関係者インタビューも収録。

2020.1./ 14p,320p

978-4-7985-0276-2

本体 ¥6,000+税



朝日新聞 2020/03/28



コトノハ町はきょうもヘンテコ(飛ぶ教室の本)

昼田 弥子、早川 世詩男 著

光村図書出版

ことわざや慣用句などのことばどおりのことが起こるコトノハ町。そんなちょっぴりヘンテコな町にすむ、小学生レンちゃんのお話。巻末に「あなたの町のことば辞典」付き。『飛ぶ教室』掲載を単行本化。

2020.3./ 149p

978-4-8138-0265-5

本体 ¥1,000+税



朝日新聞 2020/03/28



式日～句集～

安里 琉太 著

左右社

ひいふつとゆふまぐれくる氷かな 獺のおとがひも秋惜しむなり 式日や実柘榴に日の枯れてをる 紅梅や聞きそびれたる海のこと 一月をうちあげられしうつぼかな 第 1 句集。

2020.3./ 156p

978-4-86528-267-2

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/03/28



3人のママと3つのおべんとう

クク チスン、斎藤 真理子 著

ブロンズ新社

子育て、家事、仕事に毎日忙しい、ハナマンションに住む3人のママたち。今日は幼稚園の遠足の日。ママは子どもにおべんとうを用意して…。まぶしい春の一日とがんばるママたちの姿を描いた韓国発のおとな向け本。

2020:1./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-89309-669-2

本体 ¥1,400+税



朝日新聞 2020/03/28



三〇一室

宮本 佳世乃 著

港の人

素数から冬の書店に辿りつく 風船に入る空気のちとぎくしやく その他はブルーシートで覆はるる 立体となりゆく屋の金木犀 着ぶくれてやさしい雲と歩きたる 2013年から2019年までの作品をまとめた第2句集。

2019:12./ 149p

978-4-89629-374-6

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/03/28



ポスト・サブカル焼け跡派

TVOD 著

百万年書房

いま、この国は焼け跡化しつつある-。ポスト・サブカル世代の2人が、矢沢永吉から星野源まで70年代以降の日本のポップミュージックの軌跡を辿り、「ナンバーワン」の日本が没落し、焼け跡化していく中で考えたことを語る。

2020:1./ 302p

978-4-910053-12-7

本体 ¥2,400+税



朝日新聞 2020/03/28



2050年世界人口大減少

ダリル・ブリッカー／ジョン・イビットソン 著

文藝春秋

日本は世界の未来の姿-。名門調査会社のグローバルCEOらが、世界各国にてフィールドワークを敢行し、統計に加え貴重な証言をもとに、震撼の未来を論じる。「少子高齢大国・日本への提言」も日本版に特別収録。

2020:2./ 381p

978-4-16-391138-0

本体 ¥1,800+税



朝日新聞 2020/03/28、読売新聞 2020/03/28



それを、真の名で呼ぶならば～危機の時代と言葉の力～

レベッカ・ソルニット 著

岩波書店

未来はまだ決まっていない。世界は言葉で変えられる-。現代を代表する<作家・歴史家・アクティヴィスト>が、現在の危機を歴史から再考。すりかえや冷笑に抗い、予測不能な未来への希望を見いだす。

2020:1./ 7p,236p

978-4-00-023742-0

本体 ¥2,200+税



東京・中日新聞 2020/03/01



女たちのシベリア抑留

小柳 ちひろ 著

文藝春秋

従軍看護婦、電話交換手、民間人…。1000人近い日本人女性がシベリアに抑留されていた! 70年以上の沈黙を破り、捕虜だった女性たちが初めて証言したノンフィクション。NHK BS1 スペシャルをもとに書籍化。

2019:12./ 319p

978-4-16-391143-4

本体 ¥1,700+税



東京・中日新聞 2020/03/01



評伝西部邁

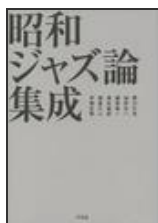
高澤秀次 著
毎日新聞出版

日本および日本人を問い続けた稀有なる思想家は、なぜ壮絶な自裁死を遂げたのか。西部邁の劇的な生涯を戦後史の中に描き、ニヒリズムを超えようとする思想的格闘の軌跡に迫る。『サンデー毎日』連載を加筆し書籍化。

2020.1./ 203p
978-4-620-32616-0
本体 ¥2,000+税



東京・中日新聞 2020/03/01



昭和ジャズ論集成

野口 久光／油井 正一／植草 甚一／清水 俊彦／相倉 久人／平岡 正明 著
平凡社

ジャズが熱く燃えた時代、日本ジャズ論もまた熱く燃えた。クラシック・ジャズがマニアをとらえた時代から、ジャズがエンタテインメント化の色を濃くしていく直前までの、日本のジャズ論のエッセンスを集約する。

2020.1./ 428p
978-4-582-83823-7
本体 ¥5,800+税



東京・中日新聞 2020/03/01、日本経済新聞 2020/03/28



二重らせん〜欲望と喧噪のメディア〜

中川 一徳 著
講談社

テレビ局が生み出すカネと利権に群がる人々。戦後、公共のものとして開放されたはずの電波。やがてメディア一族が私利、政官財で分け合い、マネーゲームの具と化していったその姿を、チャンネル 8 と 10 の裏面史で辿る。

2019.12./ 550p
978-4-06-518087-7
本体 ¥2,400+税



東京・中日新聞 2020/03/15



コレットの地中海レシピ

シドニー＝ガブリエル・コレット、村上 葉 著
水声社

踊り子をしながら、シャネルなどと交流し、自立した女性の先駆けとして、時代の先端を歩み創作活動を行ったコレット。プロヴァンスの野菜をパリのパレ・ロワイヤルで楽しんだ、グルメな女性作家によるおいしいエッセイ。

2019.12./ 154p
978-4-8010-0416-0
本体 ¥2,000+税



東京・中日新聞 2020/03/15



夜告げ鳥〜初期作品集〜

三島 由紀夫 著
平凡社

「仮面の告白」刊行 1 年前の昭和 23 年、23 歳の未生の作家・三島由紀夫自身が企画した幻の作品集。自決から 50 年、手書きで残された本人の構成案を忠実に再現。井上隆史による詳細解説を付す。

2020.1./ 318p
978-4-582-83826-8
本体 ¥2,000+税



東京・中日新聞 2020/03/15、産経新聞 2020/03/29



資本主義の新しい形(シリーズ現代経済の展望)

諸富 徹 著
岩波書店

現代の構造変化の核心である「資本主義の非物質主義的転回」を分析することを通じて、日本企業の産業競争力の低下、経済格差の拡大などの課題を理論的かつ包括的に考察。「社会的投資国家」の将来構想を打ち出す。

2020.1./ 18p, 251p
978-4-00-028733-3
本体 ¥2,600+税



東京・中日新聞 2020/03/22



殿山泰司ベスト・エッセイ(ちくま文庫 と10-9)

大庭 萱朗 編

殿山 泰司 著

筑摩書房

日本映画史に輝く名バイプレイヤー殿山泰司。酒とジャズとミステリを、そして何より自由を愛し、サングラスとジーンズで街を闊歩した「三文役者」の精髓を集めた決定版エッセイ集。単行本未収録原稿を多数収録。

2018:10./ 381p

978-4-480-43552-1

本体 ¥950+税



東京・中日新聞 2020/03/22



何度でも泣ける「沁みる夜汽車」の物語～ありふれた鉄道で起きたありえない感動の実話～

NHK 沁みる夜汽車制作チーム 著

ビジネス社

生きる勇気を与えてくれた伝言板、子どもたちの背中を押す卒業へのメッセージボード、夫婦で守り続けた駅弁…。鉄道にまつわる 10 のあたたかい物語を収録する。NHK BS で放送されなかったエピソードを追加し書籍化。

2020:1./ 231p

978-4-8284-2152-0

本体 ¥1,400+税



東京・中日新聞 2020/03/22



石坂洋次郎の逆襲

三浦 雅士 著

講談社

石坂洋次郎は少しも終わっていない、むしろ今こそ話題にされなければならない。折口信夫、宮本常一、エマニュエル・トッドらが浮かび上がらせる、おもしろくも深い石坂文学の新世界。『東奥日報』連載を加筆し単行本化。

2020:1./ 301p

978-4-06-518601-5

本体 ¥2,700+税



東京・中日新聞 2020/03/22、日本経済新聞 2020/03/28



山岳捜査

笹本 稜平 著

小学館

長野県警山岳遭難救助隊の桑崎は、鹿島槍北壁からの下山途中、女性他殺死体を発見する。その前日、同じ場所で不審な 3 人組を目撃していて…。『STORY BOX』掲載を加筆し単行本化。

2020:1./ 382p

978-4-09-386568-5

本体 ¥1,700+税



東京・中日新聞 2020/03/29



柳田國男民主主義論集(平凡社ライブラリー 885)

大塚 英志 編

柳田 國男 著

平凡社

経世済民の学として民俗学を興した彼の根底には、常に日本国憲法に通ずる精神が流れていた。民主主義の推進者、主権者教育の運動家として柳田國男を読み直す。危機に瀕する日本の民主主義のこれからを考えるために最良の書。

2020:2./ 373p

978-4-582-76885-5

本体 ¥1,600+税



東京・中日新聞 2020/03/29



日々の子どもたち〜あるいは 366 篇の世界史〜

エドゥアルド・ガレアーノ、久野 量一 著

岩波書店

円柱の上で眠る聖シメオン、彗星とともに旅するマーク・トウェイン、そして時を逍遙する無名の人々。埋もれつつある人間的で小さな<歴史>に向けられた、著者の厳しくあたたかな眼差しを追体験する 366 日、1 日 1 話。

2019:12./ 290p

978-4-00-024540-1

本体 ¥2,800+税



読売新聞 2020/03/01



うちの父が運転をやめません

垣谷 美雨 著

KADOKAWA

高齢者ドライバーの事故を伝えるテレビニュースを見た雅志は、父親も 78 歳になることに気づく。不安になって、父親に運転をやめるよう説得を試みるが…。親の運転をきっかけに家族が新たな一歩を踏み出す、心温まる家族小説。

2020:2./ 309p

978-4-04-107970-6

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/03/01



顔に降りかかる雨(講談社文庫 き 32-8)

桐野 夏生 著

講談社

親友の耀子が曰くつきの大金を持って失踪した。被害者は耀子の恋人で暴力団ともつながる男・成瀬。夫の自殺後、無為に暮らしていた村野ミロは、耀子との共謀を疑われ、成瀬と行方を追う羽目に…。村野ミロシリーズ第 1 弾。

2017:6./ 481p

978-4-06-293680-4

本体 ¥860+税



読売新聞 2020/03/01



名前の哲学(講談社選書メチエ 719)

村岡 晋一 著

講談社

西洋哲学の世界で長らくやっかいもの扱いされてきた名前。しかし、ドイツ・ユダヤ思想が、世界を別様に輝かせ…。ヴィトゲンシュタイン、ローゼンツヴァイク、ベンヤミンの思想を軸に、21 世紀の共同体論を描きだす。

2020:1./ 211p

978-4-06-518360-1

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/03/01



月イチ台北どローカル日記

森井 ユカ 著

集英社

世界を旅する雑貨マニアの著者が、台北にも部屋を借りて…。東京と行き来する中で見つけたおいしい&カワイイを、日記と写真で紹介しします。ジャケット裏に MAP 付き。

2020:1./ 127p

978-4-08-786122-8

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/03/01



中国の行動原理～国内潮流が決める国際関係～(中公新書 2568)

益尾 知佐子 著

中央公論新社

世界各国と軋轢を起こす中国。その特異な言動は、世界覇権への野心や中華思想などでは説明できない。彼らのルールを、民族特有の家族観、社会の秩序意識、政経分離のキメラ体制、国内の政治闘争から解明する。

2019:11./ 5p,306p

978-4-12-102568-5

本体 ¥920+税



読売新聞 2020/03/01



平成重大事件の深層～伝説の特捜検事が語る～(中公新書ラクレ 674)

熊崎 勝彦 著

中央公論新社

リクルート事件、共和汚職事件、カルロス・ゴーン日産自動車元会長をめぐる事件…。東京地検特捜部長として数々の事件捜査を指揮したキーパーソンにインタビュー。政官財を巻き込んだ重大事件と激動の平成 30 年史を検証する。

2020:1./ 310p

978-4-12-150674-0

本体 ¥980+税



読売新聞 2020/03/01



英国王室史話<上巻>(中公文庫)

森 護 著

中央公論新社

読売新聞 2020/03/01

2000:3./ 409p

978-4-12-203616-1

本体 ¥1,048+税



息子たちよ

北上 次郎 著

早川書房

20 年間、毎週 1 日しか家に帰らなかった父親は、本を読みながらこんなことを考えていた-。すべての親とかつての子供達に贈る家族エッセイ。『プレジデント・ファミリー』連載を加筆し書籍化。

2020:1./ 251p

978-4-15-209908-2

本体 ¥1,700+税



読売新聞 2020/03/01



依頼人は死んだ(文春文庫)

若竹 七海 著

文芸春秋

念願の詩集を出版し順風満帆だった婚約者の突然の自殺に苦しむ相場みのり。健診を受けていないのに送られてきたガンの通知に当惑する佐藤まどか。決して手加減をしない女探偵・葉村晶に持ちこまれる様々な事件の真相は、少し切なく、少しこわい。

2003:6./ 338p

978-4-16-765667-6

本体 ¥700+税



読売新聞 2020/03/01



中高年がひきこもる理由～臨床から生まれた回復へのプロセス～(青春新書 INTELLIGENCE PI-588)

榎田 智彦 著

青春出版社

長引き、くり返すひきこもり-問題の本質は意外なところにあった! 知られざる原因から、支援の現場で起きていることまで、中高年ひきこもりの実態に迫る。また、ひきこもりからの回復への道筋にも触れる。

2019:12./ 205p

978-4-413-04588-9

本体 ¥990+税



読売新聞 2020/03/01



<ひと>の現象学(ちくま学芸文庫 W 5-6)

鷺田 清一 著

筑摩書房

この世に生まれ落ち、やがて死にゆく「わたし」たち、「ひと」として生き、交わり、すれ違うその諸相-。<ひと>をめぐる問いの数々をゆるやかに開かれたまま差しだし、共鳴し連鎖する思考を展開する。

2020:1./ 289p

978-4-480-09965-5

本体 ¥1,100+税



読売新聞 2020/03/01



中国思想基本用語集

湯浅 邦弘 編

ミネルヴァ書房

中国思想への第一歩を踏み出そうとする人たちにに向けた基本用語集。時代順・テーマ別に「儒教」「諸子百家」「仏教・道教」といった6つの章に大別し、各章ごとに主要な人物、文献、事項を1項目400字程度で解説する。

2020:2./

15p,341p,23p

978-4-623-08736-5

本体 ¥2,500+税



読売新聞 2020/03/01



「王」と呼ばれた皇族～古代・中世皇統の末流～

赤坂 恒明、日本史史料研究会 著

吉川弘文館

天皇の曾孫以下の嫡男系嫡出の男子子孫「王」。興世王、以仁王、忠成王など、有名・無名のさまざまな「王」たちを、逸話を交えて紹介し、皇族の周縁部から皇室制度史の全体像に迫る。

2019:12./ 13p,268p

978-4-642-08369-0

本体 ¥2,800+税



読売新聞 2020/03/01



令和の皇室～天皇陛下御即位記念特別報道写真集～

共同通信社 編

共同通信社

即位の礼関連儀式や行事、地方・外国ご訪問、結婚の儀など、国民とともに歩まれる令和の両陛下のお姿を余すことなく収録した写真集。同タイトルの全国の新聞社が刊行したものと同内容。

2019:10./ 136p,9p

978-4-7641-0714-4

本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/03/01



国民食の履歴書～カレー、マヨネーズ、ソース、餃子、肉じゃが～

魚柄 仁之助 著

青弓社

文明開化期からの家庭雑誌・料理雑誌を渉猟して、レシピどおりに調理し、経験豊かな舌で味を吟味。その結果から通説の輸入史・生育史に疑問やダメ出しを投げかけて、意外な経歴を明らかにする食文化論。

2020:1./ 187p

978-4-7872-2087-5

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/03/01



結局、自分のことしか考えない人たち～自己愛人間への対応術～(草思社文庫 ホ2-1)

サンディ・ホチキス 著

草思社

気に入らないと激怒し、都合が悪いとウソをつき、人を見下し利用する、自己愛人間の7つの大罪をあげ、理不尽な言動の奥にひそむ、複雑な心理構造を解き明かす。さらにかれらの毒から身をまもる4つの戦略を紹介する。

2020:2./ 238p

978-4-7942-2441-5

本体 ¥850+税



読売新聞 2020/03/01



なぜ「やる気」は長続きしないのか～心理学が教える感情と成功の意外な関係～

デイヴィッド・デステノ 著

白揚社

目先の欲望に負けて大切な目標を台無しにする。感情はいわば敗北の元凶とされたが、この考えははたして健全なものなのか？ 成功のカギを握っているのが感謝や思いやりといった社会的感情であることを実証的に突き止める。

2020:2./ 285p

978-4-8269-0215-1

本体 ¥2,400+税



読売新聞 2020/03/01



勲章と褒章～この一冊で、すべてがわかる。～ 新版

佐藤 正紀 著

全国官報販売協同組合

国や社会のために尽くした人々に贈られる勲章や褒章。どのような人が、どのような理由で受章できるのか。知られざる叙勲制度の舞台裏を含め、日本の勲章と褒章のすべてを紹介する。経歴を書き込むスペースあり。

2014.4./ 97p

978-4-86458-058-8

本体 ¥2,273+税



読売新聞 2020/03/01



「皇室外交」と象徴天皇制～1960-1975 年～

舟橋 正真 著

吉田書店

昭和天皇の「皇室外交」はどのように展開されたのか。1960 年以降の首相官邸、外務省、宮内庁、皇室、与野党、そして外国政府、マスメディアの動きを丹念に追って検証する。

2019.12./ 7p,254p

978-4-905497-79-0

本体 ¥3,800+税



読売新聞 2020/03/01



琉球王国は誰がつくったのか～倭寇と交易の時代～

吉成 直樹 著

七月社

農耕社会を基盤とし、沖縄島内部で力を蓄えた按司たちが、抗争の末に王国を樹立したという通説は真実か？ 琉球弧のグスク時代の開始期から琉球国の成立期頃までの歴史過程について、新たな知見を交え、新しい古琉球史を編む。

2020.1./ 339p

978-4-909544-06-3

本体 ¥3,200+税



読売新聞 2020/03/01



「僕ら」の「女の子写真」からわたしたちのガーリーフォトへ

長島 有里枝 著

大福書林

1990 年代に若い女性アーティストを中心として生まれた写真の潮流「女の子写真」。木村伊兵衛写真賞受賞作家自らが、社会的構築主義の手法を参照しながらそれがどのような潮流/ムーブメントであったかを再検討する。

2020.1./ 19p,379p,8p

978-4-908465-11-6

本体 ¥3,300+税



読売新聞 2020/03/01、朝日新聞 2020/03/28



評伝 石牟礼道子～渚に立つひと～(新潮文庫 よ-43-1)

米本 浩二 著

新潮社

いかにして「苦海浄土」は書かれ得たか？ 作者・石牟礼道子の誕生から文学的彷徨、闘争の日々、暮らしと命を見つめてやまなかった晩年まで、創造の源泉と 90 年の豊饒を描き切る、初の本格的評伝。

2020.2./ 474p

978-4-10-101851-5

本体 ¥750+税



読売新聞 2020/03/01、日本経済新聞 2020/03/28



種痘伝来～日本の<開国>と知の国際ネットワーク～

アン・ジャネッタ、廣川 和花、木曾 明子 著

岩波書店

牛痘種痘の最新技術を日本に伝え、広めようとする苦闘のなかで形成されていた国内外の医師や学者の知的ネットワークを辿りながら、その後の日本の近代化を準備することにもなった彼らの営みを生き生きと描き出す。

2013.12./

15p,216p,38p

978-4-00-025936-1

本体 ¥4,000+税



読売新聞 2020/03/15



至高の十大指揮者～トスカニーニ/ワルター/フルトヴェングラー/ミュンシュ/ムラヴィンスキー カラヤン/バーンスタイン/アバド/小澤/ラトル～(角川ソフィア文庫 F161-2)
中川 右介 著
KADOKAWA
「三大指揮者」トスカニーニ、ワルター、フルトヴェングラーからカラヤン、バーンスタインを経て、現代の巨匠ラトルまで。彼らはどのようにキャリアを積み上げ、何を成し遂げたのか。世界的指揮者たちの人間ドラマを綴る。

2020:1./ 516p
978-4-04-400475-0
本体 ¥1,240+税
* 9 7 8 4 0 4 4 0 0 4 7 5 0 *

読売新聞 2020/03/15



冬の旅
辻原 登 著
集英社
妻の失踪を皮切りに、緒方隆雄の人生は悪いほうへ悪いほうへと雪崩れる。失職、病、路上生活、強盗致死…。刑期を終えて緒方は滋賀刑務所を出所し、たった1人、この世の果てへと歩き出す…。現代を照射する、哀しみの黙示録。

2013:1./ 357p
978-4-08-771482-1
本体 ¥1,600+税
* 9 7 8 4 0 8 7 7 1 4 8 2 1 *

読売新聞 2020/03/15



坂下あたると、しじょうの宇宙
町屋 良平 著
集英社
詩を書く高校生の毅は、小説の才能がある親友あたるに嫉妬していた。ある日、小説投稿サイトにあたるの作風を模倣した AI による偽アカウントが作られ、オリジナルの面白さを超え始め…。『小説すばる』連載を単行本化。

2020:2./ 233p
978-4-08-771693-1
本体 ¥1,600+税
* 9 7 8 4 0 8 7 7 1 6 9 3 1 *

読売新聞 2020/03/15



あの日を刻むマイク～ラジオと歩んだ九十年～
武井 照子 著
集英社
自由でのびやかな子供の頃、戦争の足音がする少女期、GHQ の統治下で担当した「婦人の時間」…。94 歳、NHK の「働く母親第一号」である元ラジオアナウンサーが、激動の半生を振り返る。

2020:1./ 299p
978-4-08-775448-3
本体 ¥1,700+税
* 9 7 8 4 0 8 7 7 5 4 4 8 3 *

読売新聞 2020/03/15



黒川能～1964 年、黒川村の記憶～
船曳 由美 著
集英社
子供たちの能の稽古、榎屋敷の神事、稚児の大地踏、明け方までつづく演能…。月山の麓に 500 年以上続く悠久の王祇祭。1964 年に黒川能と出会った女性編集者が、村の内側から哀惜込めて描きあげた、当時の黒川村の記録。

2020:1./ 389p
978-4-08-789013-6
本体 ¥3,600+税
* 9 7 8 4 0 8 7 8 9 0 1 3 6 *

読売新聞 2020/03/15



父・山口瞳自身～息子が語る家族ヒストリー～(P+D BOOKS)
山口 正介 著
小学館
作家・山口瞳の長男が、父の作品に向かう姿勢や葛藤、家族関係などを明らかにする。息子でなければ書き得ない仰天エピソードが満載。「山口瞳電子全集」に掲載された解説「草臥山房通信」を再編集・加筆・修正。

2020:3./ 544p
978-4-09-352387-5
本体 ¥650+税
* 9 7 8 4 0 9 3 5 2 3 8 7 5 *

読売新聞 2020/03/15



ロスねこ日記

北大路 公子 著

小学館

飼い猫が死んで 15 年近く。私の心にはぽっかりと猫の穴が空いていた。ある日、担当編集者に植物を育ててみないかと提案され…。植物と過ごした 1 年を日記形式で綴る。『STORY BOX』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2020:2./ 251p

978-4-09-388753-3

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/03/15



破船 改版(新潮文庫 よ-5-18)

吉村 昭 著

新潮社

嵐の夜、浜で火を焚き、近づく船を坐礁させ、その積荷を奪い取る…。僻地の貧しい漁村に伝わる、サバイバルのための異様な風習“お船様”が招いた、悪夢のような災厄を描く、異色の長編小説。

2012:6./ 240p

978-4-10-111718-8

本体 ¥520+税



読売新聞 2020/03/15



雪の花 改版(新潮文庫 よ-5-23)

吉村 昭 著

新潮社

天然痘の絶対確実な予防法が異国から伝わったと知った福井藩の町医・笠原良策は、私財を投げ打ち生命を賭して種痘の苗を福井に持ち込んだ。しかし庶民は種痘に激しい恐怖感をいだき、藩医の妨害もあっていっこうに広まらず…。

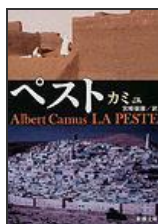
2012:2./ 180p

978-4-10-111723-2

本体 ¥430+税



読売新聞 2020/03/15



ペスト 改版(新潮文庫)

カミュ 著

新潮社

読売新聞 2020/03/15

2004:1./ 476p

978-4-10-211403-2

本体 ¥750+税



直筆の漱石～発掘された文豪のお宝～(新潮選書)

川島 幸希 著

新潮社

修正原稿や書き損じ、原稿用紙裏の落書き…。入手した数多くの自筆資料から見えてくる「未知の漱石」。芥川、太宰らとの比較も交え、「倫敦消息」の“百年の謎”なども解明する。新発見資料「文学志望者のために」を全文収録。

2019:11./ 243p

978-4-10-603848-8

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/03/15



探偵は絵にならない(ハヤカワ文庫 JA 1418)

森 晶磨 著

早川書房

若くして評価を受けるも、すでに失業ぎみの画家・濱松蒼。同棲していたフオンも家を出て行ってしまふ。フオンを追いかけ 2 人の出身地・浜松に戻った蒼は、友人のアロマテラピスト・小吹蘭都の住居に転がり込み…。

2020:2./ 308p

978-4-15-031418-7

本体 ¥760+税



読売新聞 2020/03/15



かぜの科学～もともと身近な病の生態～(ハヤカワ文庫 NF 421)

ジェニファー・アッカーマン、鍛原 多恵子 著

早川書房

そもそも風邪って何？自ら罹患実験に挑んだサイエンスライターが最新の知見を用いて風邪の正体に迫り、古今東西の民間療法や市販薬の効果のほどを明らかにする。これまでの常識を覆す、まったく新しい風邪読本。

2014.12./ 339p

978-4-15-050421-2

本体 ¥760+税



読売新聞 2020/03/15



感染地図～歴史を変えた未知の病原体～(河出文庫 シ 9-1)

S.ジョンソン、矢野 真千子 著

河出書房新社

150 年前のロンドンを見えない敵が襲った。大疫病禍の感染源究明に挑む「壮大な実験」と「壮絶な闘い」。恐怖や惨劇の中で進む探偵劇から、公衆衛生の概念の転換点と、現代都市が抱える共通の問題を多面的に検証する。

2017.12./ 368p

978-4-309-46458-9

本体 ¥980+税



読売新聞 2020/03/15



まんぷく～料理時代小説傑作選～(PHP 文芸文庫 み 1-13)

畠中 恵、坂井 希久子、青木 祐子、中島 久枝、梶 よう子、宮部 みゆき、細谷 正充 編

畠中 恵、坂井 希久子、青木 祐子、中島 久枝、梶 よう子、宮部 みゆき 著

PHP 研究所

岡っ引きの茂七は、謎めいた稲荷寿司屋台の親父が出す料理をきっかけに事件の真相に迫り…。宮部みゆき「お勢殺し」をはじめ、女性時代作家による江戸の料理や菓子をめぐる短編6作を収録したアンソロジー。

2020.1./ 312p

978-4-569-76989-9

本体 ¥740+税



読売新聞 2020/03/15



養蚕と蚕神～近代産業に息づく民俗的想像力～

沢辺 満智子 著

慶應義塾大学出版会

繊細を極め、人の手を借りなければいけない「お蚕さま」。その飼育を担ったのは農村の女性たちの熟練した身体的技術と、連綿と受け継がれてきた民俗的想像力だった。近代産業のもう一つの側面を鮮やかに織り上げた力作。

2020.2./ 307p,16p

978-4-7664-2644-1

本体 ¥5,600+税



読売新聞 2020/03/15



国策落語はこうして作られ消えた

柏木 新 著

本の泉社

戦時中、戦争遂行という当時の国策にそった落語を新たに作り演じた国策落語。その成立過程と時代背景を説明するとともに、「出征」「防空演習」「日本軍賛美」などを題材に戦争に協力した落語のあらすじを紹介する。

2020.2./ 255p

978-4-7807-1959-8

本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/03/15



ニッポン神様ごはん～全国の神饌と信仰を訪ねて～

吉野 りり花 著

青弓社

貴船神社の若菜神事(京都市)、御座石神社のどぶろく祭り(茅野市)、あえのこと(石川県能都町)...。各地に古くから伝わる神様の食事である神饌と、信仰や伝統文化、その担い手の息づかいを、カラー写真とともに紹介する。

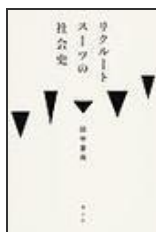
2019:12./ 166p

978-4-7872-2086-8

本体 ¥2,000+税



読売新聞 2020/03/15



リクルートスーツの社会史

田中 里尚 著

青土社

なぜみんな同じようなリクルートスーツを着るのか。起源、歴史、変遷、文化、ジェンダーなどを網羅的に分析し、その社会的な意義を明らかにする、あたらしい服飾史にして画期的な社会史。

2019:9./ 526p,6p

978-4-7917-7206-3

本体 ¥3,600+税



読売新聞 2020/03/15



『女工哀史』を再考する～失われた女性の声を求めて～

サンドラ・シャール 著

京都大学学術出版会

大正時代の女工の苛酷な労働と生活を描いた『女工哀史』。当事者への聞き取り調査から見える女工たちの主体的な<声>を基に、彼女たちの肯定的な労働意識を解明。苛酷な条件下に置かれた女工という従来の歴史観の是非を問う。

2020:2./ 9p,495p

978-4-8140-0231-3

本体 ¥6,200+税



読売新聞 2020/03/15



本を売る技術

矢部 潤子 著

本の雑誌社

取引や流通のことから、売場作り、平積みの仕方、平台の考え方、掃除やPOPの付け方にいたるまで、1冊でも多く本を売るための技術と考察を具体的に・論理的に語る。WEB『本の雑誌』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2020:1./ 237p

978-4-86011-438-1

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/03/15



関東大震災と中国人虐殺事件

今井 清一 著

朔北社

1923年の関東大震災では、家屋が倒壊して大火となり、朝鮮人が放火したという流言が広がった。中国人もあやしいとされて、朝鮮人と中国人が虐殺され...。資料が比較的存在している中国人虐殺事件に的を絞り、多角的に考察。

2020:1./ 216p

978-4-86085-136-1

本体 ¥2,200+税



読売新聞 2020/03/15



21世紀落語史～すべては志ん朝の死から始まった～(光文社新書 1045)

広瀬 和生 著

光文社

古今亭志ん朝の早すぎる死という悲劇を乗り越える中で「落語ブーム」が訪れ、今の活況に結びついた。21世紀の落語界の現在に至るまでの出来事を、落語ファンとして客席に足を運び続けた立場から振り返る。

2020:1./ 377p

978-4-334-04455-8

本体 ¥1,000+税



読売新聞 2020/03/15、朝日新聞 2020/03/21



十二月の十日

ジョージ・ソーランドズ、岸本 佐知子 著

河出書房新社

愛する長女のために素敵な誕生パーティを開こうと格闘する父親、人間モルモットとして薬を投与される若者たち、暴力の衝動を膨れ上がらせる若き元軍人…。ダメ人間たちが下降のはてに意外な気高さに輝く姿を描き出した短篇集。

2019:12./ 292p

978-4-309-20786-5

本体 ¥2,400+税



読売新聞 2020/03/15、読売新聞 2020/03/28



岩井克人「欲望の貨幣論」を語る

丸山 俊一／NHK「欲望の資本主義」制作班 著

東洋経済新報社

仮想通貨＝暗号資産が生まれ、キャッシュレス化が進行する時代の貨幣、市場、資本主義とは。その本質に日本を代表する経済学者が迫る。NHK 経済教養ドキュメントを書籍化。未放送部分も多数収録。

2020:2./ 203p,9p

978-4-492-37124-4

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/03/15、毎日新聞 2020/03/28



新実存主義(岩波新書 新赤版 1822)

マルクス・ガブリエル 著

岩波書店

心と脳は同じものなのか。心はすべて物理的な理論で説明がつくのか。気鋭の哲学者が、脳科学全盛の時代に、実存主義と心の哲学をつなげ、21世紀のための新たな存在テーゼを提示する。

2020:1./ 2p,210p,5p

978-4-00-431822-4

本体 ¥800+税



読売新聞 2020/03/22



ひとりメシ超入門(朝日新書 753)

東海林 さだお 著

朝日新聞出版

ひとりメシは、自分だけの「段取り」や「思いつき」を貫いて食べればゼッタイにもっともとうまくなる！半世紀以上の研究から編み出した「ひとりメシ十訓」、南伸坊との対談も収録。『週刊朝日』連載を書籍化。

2020:2./ 305p

978-4-02-295056-7

本体 ¥890+税



読売新聞 2020/03/22



晴子情歌<上>(新潮文庫 た-53-31)

高村 薫 著

新潮社

遠洋漁船に乗り組む息子のもとに大量に届き始めた母・晴子からの手紙。そこにはみずみずしい15歳の少女がおり、未来の母がいた。息子・彰之は初めて母という名の海へ漕ぎ出していく…。

2013:5./ 432p

978-4-10-134723-3

本体 ¥670+税



読売新聞 2020/03/22



晴子情歌<下>(新潮文庫 た-53-32)

高村 薫 著

新潮社

戦前から戦後へ続く母・晴子の回顧と独白は、彰之自身の記憶の呼び声となって波のごとく重なり、うねり合う。母はなぜこうも遠いのか。母とはいったい何者か。薄れゆく近代日本の記憶と、或る母子の肖像。

2013:5./ 412p

978-4-10-134724-0

本体 ¥670+税



読売新聞 2020/03/22



ふどもえ

辻原 登 著

中央公論新社

甫とちづるはセックスレス夫婦。ある日、ちづるは年下のネイリスト可奈子に誘われて、性愛の関係を結ぶ。さらに甫と旧知の穂子と意気投合したちづるは、可奈子を穂子に紹介し…。『中央公論』連載を書籍化。

2020.1./ 455p

978-4-12-005258-3

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/03/22



装丁物語(中公文庫 わ 25-1)

和田 誠 著

中央公論新社

装丁の第一人者・和田誠が、書物に新しい生命を吹き込むための発想のコツとノウハウを、作家たちとの交流を中心にさまざまな側面から語る、もうひとつの本の物語。本好きな人、必読の一冊。

2020.2./ 284p

978-4-12-206844-5

本体 ¥840+税



読売新聞 2020/03/22



金足農業、燃ゆ

中村 計 著

文藝春秋

一度は空中分解したチームは、どう立ち直り躍進したか? 2018 年夏の甲子園を沸かせた、秋田代表・金足農業高等学校の“気性が荒い”ナインの姿を、当事者への徹底取材をもとに生き生きと描き出す。

2020.2./ 335p

978-4-16-391058-1

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/03/22



死体は語る<2> 上野博士の法医学ノート(文春文庫 う 12-2)

上野 正彦 著

文藝春秋

死斑の色に、まぶたの裏に、頭蓋骨の奥底に、本当の死因は隠されている。捜査機関から絶大な信頼を得た元監察医が、2 万体制す検死実績から導き出した、死体の声無き声を聴く「上野法医学」。『月刊 BAN』連載を文庫化。

2020.2./ 262p

978-4-16-791445-5

本体 ¥650+税



読売新聞 2020/03/22



東京「多叉路」散歩～交差点に古道の名残をさぐる～

荻窪 圭 著

淡交社

古地図をひもとき小さな痕跡を丹念に拾うと、ただの交差点の、積み重なった歴史の長さが見えてくる。鎌倉街道に残る九道の辻、五叉路になった「大井三ツ又」など、東京にある多叉路を取り上げ、多叉路化の歴史を掘り下げる。

2020.3./ 175p

978-4-473-04396-2

本体 ¥1,600+税



読売新聞 2020/03/22



トキワ荘の時代(ちくま文庫 か 79-1)

梶井 純 著

筑摩書房

戦後マンガの巨匠たちが青春時代を過ごしたトキワ荘アパート。そこにはいつもテラさんがいた。「スポーツマン金太郎」などの名作を残した寺田ヒロオの足跡をたどりながら、マンガが青春だった頃の姿を描くノンフィクション。

2020.2./ 267p

978-4-480-43649-8

本体 ¥880+税



読売新聞 2020/03/22



7つの階級～英国階級調査報告～
 マイク・サヴィジ、舩山 むつみ 著
 東洋経済新報社

ホワイトカラー/ブルーカラー、中流/労働者、こんな分類はもう古い! 経済資本・文化資本・社会関係資本の3つの資本を組み合わせる新しい階級分類により、現在のイギリス社会における階級格差を明らかにする。

2019.11./
 6p,384p,24p
 978-4-492-22385-7
 本体 ¥2,800+税



読売新聞 2020/03/22



屋根の上のバイリンガル(白水Uブックス)
 沼野充義 著
 白水社
 読売新聞 2020/03/22

1996.3./ 243p
 978-4-560-07334-6
 本体 ¥950+税



告発と誘惑～ジャン＝ジャック・ルソー論～(叢書・ユニベルシタス 1106)
 ジャン・スタロバンスキー 著
 法政大学出版局

「透明と障害」と対をなす著者最晩年のルソー論。ルソーが墮落した文明社会を激しく告発し、原初の幸福へと誘惑することで多くの熱狂的読者を獲得した行程を、新しい雄弁とレトリックの創造に注目して鮮やかに描き出す。

2019.12./
 6p,406p,12,5p
 978-4-588-01106-1
 本体 ¥4,200+税



読売新聞 2020/03/22



大地の古代史～土地の生命力を信じた人びと～(歴史文化ライブラリー 493)
 三谷 芳幸 著
 吉川弘文館

古代の人びとは、大地とどのように関わっていたのか。大地をめぐる地方と都の人びとの豊かな営みや、土地へのユニークな信仰を追究。「未開」と「文明」の葛藤をたどり、日本人の宗教的心性のひとつの根源を探り出す。

2020.2./ 6p,204p
 978-4-642-05893-3
 本体 ¥1,700+税



読売新聞 2020/03/22



北朝鮮帰国事業の研究～冷戦下の「移民的帰還」と日朝・日韓関係～
 菊池 嘉晃 著
 明石書店

1959?1984年、在日コリアンと日本人配偶者を含む家族9万人余りが日本から朝鮮民主主義共和国へと渡った北朝鮮帰国事業。その歴史的展開過程や北朝鮮の国家戦略、帰国者らの動機と宣伝・メディアの役割などを論じる。

2020.1./ 859p
 978-4-7503-4960-2
 本体 ¥8,800+税



読売新聞 2020/03/22



作曲家が語る音楽と日常～パリと東京を行き来して～
 望月 京 著
 海竜社

パリで出会った人々、師との再会、晩年の父の姿。何気ない日々の暮らしも、作曲活動に?がっている。現代音楽の作曲家・望月京が日常のこと家族のこと、これからの音楽のあり方について語る。『日本経済新聞』連載等に加筆。

2019.11./ 197p
 978-4-7593-1650-6
 本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/03/22



青空

真島 昌利、Botchy-Botchy 著

現代書館

生まれた所や皮膚や目の色で、いったいこの僕の何がわかるというのだろう。いつの時代に口ずさんでも同じ強い力を持っている、ザ・ブルーハーツの名曲「青空」を絵本化。吉本ばななのメッセージも収録。

2019.12./ 1 冊(ペー
ジ付なし)

978-4-7684-5874-7

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/03/22



根に帰る落葉は

南木 佳士 著

田畑書店

書くために生きたのではなく、生きるために書いた。タイの難民収容所で文学界新人賞受賞の連絡を受けてから 40 年。歳月を振り返りつつ、肩ひじ張らず「根に帰る」境地をさぐったエッセイ。

2020.3./ 172p

978-4-8038-0370-9

本体 ¥1,300+税



読売新聞 2020/03/22



中国手仕事紀行～雲南省 貴州省～

石田エリ 編

奥村忍／在本彌生 著

青幻舎

“現代の民藝”の担い手が、消えゆく手仕事を追って中国奥地を旅したリアルドキュメンタリー。雲南省と貴州省の旅のルポとともに、現地の手仕事を紹介する。中国旅 TIPS も掲載。

2020.1./ 293p

978-4-86152-765-4

本体 ¥2,500+税



読売新聞 2020/03/22



坊さん、ぼ一つとする。～娘たち・仏典・先人と対話したり、しなかったり～

白川 密成 著

ミシマ社

今、必要なのは、情報でも評価でも判断でもなく、期待せずに平気で待つ勇氣。進化するポップな坊さんが、その現在地を「理趣経」をひもときながら綴る。『みんなのミシマガジン』連載を改題、加筆修正して書籍化。

2020.2./ 237p

978-4-909394-33-0

本体 ¥1,700+税



読売新聞 2020/03/22



あいたくてききたくて旅にでる

清水 チナツ 編

PIMPQUAKES

50 年にわたり東北の村々を訪ね、民話を乞うてきた民話採訪者・小野和子が、採訪の旅日記を軸に、聞かせてもらった民話、手紙、文献などさまざまな性質のテキストを、旅で得た実感とともに編んだ全 18 話を収録。

2019.12./ 357p

978-4-9911310-0-4

本体 ¥2,700+税



読売新聞 2020/03/22



諸子百家～孔子・老子・莊子・孟子 荀子・韓非子・孫子～(角川ソフィア文庫 1407-2)

渡辺 精一 著

KADOKAWA

孔子、老子、莊子、孟子…。乱世の古代中国に現れ、熱弁を振るった思想家たちに共通するのは、誠実であり、根底に人間愛があることだった。それぞれの個性的な思想を読み解き、人柄から見えてくる思想の本質を解き明かす。

2020.2./ 366p

978-4-04-400568-9

本体 ¥960+税



読売新聞 2020/03/22、毎日新聞 2020/03/22



レバノンから来た能楽師の妻(岩波新書 新赤版 1818)

梅若 マドレーヌ、竹内 要江 著

岩波書店

祖国の内戦を逃れ来日した女子高生が若き能楽師と出会う。伝統芸能の世界に入る彼女を待ち受けていた試練とは…。能の魅力を妻兼マネージャーとして国内外に発信し、子育てや母の介護に奔走する、ある女性の記録。

2019:12./

12p,205p,3p

978-4-00-431818-7

本体 ¥780+税



読売新聞 2020/03/28



ゆかいな珍名踏切(朝日新書 747)

今尾 恵介 著

朝日新聞出版

畑道踏切、天皇様踏切、パーマ踏切…。踏切には名前があるが、実に適当に名づけられている。踏切の名称に惹かれた「踏切名称マニア」が現地を訪れ、その由来を解き明かす。ニュース・サイト『アエラ・ドット』連載を加筆修正。

2020:1./ 253p

978-4-02-295048-2

本体 ¥810+税



読売新聞 2020/03/28



17音の青春～五七五で綴る高校生のメッセージ～<2020>

学校法人 神奈川大学広報委員会 編

KADOKAWA

17音の俳句に凝縮された高校生たちの青春の日々…。第22回神奈川大学全国高校生俳句大賞の入選作品を紹介する。応募高校一覧、団体賞受賞校、一句入選作品、選考座談会なども収録。

2020:3./ 149p

978-4-04-884340-9

本体 ¥700+税



読売新聞 2020/03/28



しゃもぬまの島

上畠 菜緒 著

集英社

人を天国へと導く幻獣「しゃもぬま」が住む島。美しい少女たちの記憶と、呪われた家系の秘密。あの世へと誘われるのは、いったい誰なのか。幻想と現実を切り裂くデビュー作。『小説すばる』に抄録掲載した作品を単行本化。

2020:2./ 219p

978-4-08-771698-6

本体 ¥1,500+税



読売新聞 2020/03/28



いつでも母と

山口 恵以子 著

小学館

最愛の母が認知症に。やがて始まった介護と自宅での看取り…。いくつもの後悔と色褪せない幸せな思い出。いつでも二人三脚で生きてきた独身の娘と老い衰えていく母の軌跡を綴る。『女性セブン』連載を再構成し加筆修正。

2020:3./ 286p

978-4-09-396547-7

本体 ¥1,200+税



読売新聞 2020/03/28



魂でもいいから、そばにいて～3・11後の霊体験を聞く～(新潮文庫 お-109-1)

奥野 修司 著

新潮社

「誰にも話せませんでした。死んだ家族と“再会”したなんて-」 未曾有の大震災で家族を突然失い、絶望の淵にあった人びとの奇跡の体験と再生の記録。

2020:3./ 312p

978-4-10-123311-6

本体 ¥590+税



読売新聞 2020/03/28



切れた鎖(新潮文庫)
田中 慎弥 著
新潮社
読売新聞 2020/03/28

2010:8./ 164p
978-4-10-133481-3
本体 ¥400+税



公園へ行かないか?火曜日に
柴崎 友香 著
新潮社
世界各国から作家や詩人たちが集まる IWP に参加した著者が、議論をし、街を歩き、アメリカ大統領選挙を目撃した3か月を描く連作小説集。表題作ほか全11篇を収録する。『新潮』等掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

2018:7./ 276p
978-4-10-301833-9
本体 ¥1,700+税

読売新聞 2020/03/28



貨幣進化論～「成長なき時代」の通貨システム～(新潮選書)
岩村 充 著
新潮社
格差と貧困、通貨危機、バブル、デフレ、そしてハイパーインフレ…。なぜ「お金」は正しく機能しなくなったのか。四千年の経済史から「右肩上がりの成長を前提としたシステム」の限界に鋭く迫る。

2010:9./ 302p
978-4-10-603666-8
本体 ¥1,400+税

読売新聞 2020/03/28



中央銀行が終わる日～ビットコインと通貨の未来～(新潮選書)
岩村 充 著
新潮社
日本銀行の金融政策はなぜ効かないのか。日銀を飛び出した経済学者が、ビットコイン等の仮想通貨の仕組みをわかりやすく解説し、マイナス成長と大格差時代を生き抜くための新たな通貨システムを提唱する。

2016:3./ 301p
978-4-10-603782-5
本体 ¥1,400+税

読売新聞 2020/03/28



国家・企業・通貨～グローバリズムの不都合な未来～(新潮選書)
岩村 充 著
新潮社
19世紀に誕生した国民国家・株式会社・中央銀行。だがグローバリズムとAI等のデジタル化が3者のバランスを崩し、中間層を蝕み始めた。超低金利、株主優遇…。悪循環する資本主義の行方を日銀出身の異才が描く。

2020:2./ 317p
978-4-10-603852-5
本体 ¥1,400+税

読売新聞 2020/03/28



ひとの住処～1964-2020～(新潮新書 848)
隈 研吾 著
新潮社
10年間東京で干される間に地方各地で培ったのは「緑」と共生する次の建築だった-。建築家・隈研吾が自分史を軸に、1964年と2020年、2つのオリンピックを通して、日本の過去と未来、そして人間と建築の関係を語る。

2020:2./ 203p
978-4-10-610848-8
本体 ¥740+税

読売新聞 2020/03/28



内戦と和平～現代戦争をどう終わらせるか～(中公新書 2576)

東 大作 著

中央公論新社

軍事紛争を止め、持続的な平和を達成する方法はあるのか。日本はどんな役割を担えるのか。21世紀以降の内戦の過程を分析し、仲介者による「和平調停」活動を中心に据えた、戦争克服の処方箋を探る。

2020:1./ 7p,258p

978-4-12-102576-0

本体 ¥880+税



読売新聞 2020/03/28



怒り<上>(中公文庫 よ43-2)

吉田 修一 著

中央公論新社

惨殺現場に残された「怒」の血文字。杳として行方の知れない犯人。そして、事件から1年後の夏-。房総の漁港で暮らす洋平・愛子親子の前に田代が現れ、ゲイの優馬は直人と出会い、女子高生・泉は田中と知り合う…。

2016:1./ 310p

978-4-12-206213-9

本体 ¥600+税



読売新聞 2020/03/28



怒り<下>(中公文庫 よ43-3)

吉田 修一 著

中央公論新社

愛子は田代から秘密を打ち明けられ、疑いを持った優馬の前から直人が消え、泉は田中が暮らす無人島である発見をする。整形をして逃亡を続ける、殺人事件の犯人はどこにいるのか?犯人を追う刑事が見た衝撃の結末とは!

2016:1./ 279p

978-4-12-206214-6

本体 ¥600+税



読売新聞 2020/03/28



愛について語るときに我々の語ること(村上春樹翻訳ライブラリー)

レイモンド・カーヴァー、村上 春樹 著

中央公論新社

アグレッシブな小説作法とミステリアスなタイトリングで、作家カーヴァーの文学的アイデンティティを深く刻印し、1980年代アメリカ文学にカルト的ともいえる影響を及ぼした、鮮やかにして大胆な短篇集。

2006:7./ 301p

978-4-12-403499-8

本体 ¥1,100+税



読売新聞 2020/03/28



ヒトの目、驚異の進化～視覚革命が文明を生んだ～(ハヤカワ文庫 NF 555)

マーク・チャンギージ 著

早川書房

なぜヒトの目は色付きでものが見えるようになったのか?なぜ前向きについているのか?ヒトの目が持つ4つの超人的能力を検証、大胆かつ精緻な仮説によりかつてない興奮と発見を多分野にもたらした、視覚科学の冒険。

2020:3./ 322p

978-4-15-050555-4

本体 ¥1,060+税



読売新聞 2020/03/28



木戸幸一～内大臣の太平洋戦争～(文春新書 1253)

川田 稔 著

文藝春秋

木戸孝允の子孫で、日米開戦前から終戦まで内大臣を務めた木戸幸一。陸軍との深い関係、対英米協調路線への反発の一方で、日米戦回避、終戦に尽力した“天皇側近”の複雑な思考と行動に迫る評伝。

2020:2./ 387p

978-4-16-661253-6

本体 ¥1,200+税



読売新聞 2020/03/28



春の庭(文春文庫 し 62-1)

柴崎 友香 著

文藝春秋

世田谷の取り壊し間近のアパートに住む太郎は住人の女と知り合う。彼女は隣に建つ「水色の家」に異様な関心を示していた。街に積み重なる時間の中で、彼らが見つけたものとは…。書き下ろし&単行本未収録短篇を加えた小説集。

2017:4./ 245p

978-4-16-790827-0

本体 ¥640+税



読売新聞 2020/03/28



長いお別れ(文春文庫 な 68-3)

中島 京子 著

文藝春秋

かつて中学の校長だった東昇平はある日、同窓会に辿り着けず、自宅に戻ってくる。認知症だと診断された彼は、妻と3人の娘を予測不能なアクシデントに巻き込んでいく…。あたたかくて切ない、家族の物語。

2018:3./ 286p

978-4-16-791029-7

本体 ¥660+税



読売新聞 2020/03/28



コンビニ人間(文春文庫 む 16-1)

村田 沙耶香 著

文藝春秋

36歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは18年目。これまで彼氏なし。ある日、婚活目的の新入り男性、白羽がやってきて、そんなコンビニの生き方は恥ずかしいと突きつけられるが…。

2018:9./ 168p

978-4-16-791130-0

本体 ¥580+税



読売新聞 2020/03/28



世界の歴史大年表〜ビジュアル版〜

定延 由紀／李 聖美／中村 佐千江 著

創元社

宇宙の誕生からドローンの登場まで、138億年の歴史を134のテーマで読み解くビジュアル年表。テーマごとの独創的なレイアウト、各時代を象徴する図版・写真を豊富に盛り込んだ年表は、どこから読んでも楽しめます。

2020:3./ 310p

978-4-422-21533-4

本体 ¥4,500+税



読売新聞 2020/03/28



次の時代を先に生きる〜ローカル、半農、ナリワイへ〜(ちくま文庫 こ 45-2)

高坂 勝 著

筑摩書房

もうやめよう。がんばるのをやめて幸せを目指そう。今までの生き方を「Re Life」し、働き方を「Re Work」して、人生を「Re Design」する時が来ている。自分を取り戻す「Re:」の思想について語る。

2020:2./ 349p

978-4-480-43653-5

本体 ¥880+税



読売新聞 2020/03/28



ハイデガーの超政治〜ナチズムとの対決/存在・技術・国家への問い〜

轟 孝夫 著

明石書店

20世紀最大の哲学者ハイデガーはなぜナチスに加担したのか。「黒ノート」の「反ユダヤ主義的」覚書の真意とは。後期の「存在の思索」に秘められた政治的メッセージとは。「存在と時間」以後のハイデガー後期思想を解明する。

2020:2./ 372p

978-4-7503-4956-5

本体 ¥1,800+税



読売新聞 2020/03/28



フィフティ・ピープル(となりの国のものがたり 01)

チョン セラン、斎藤 真理子 著

亜紀書房

ガンで余命宣告を受けた母に結婚を急かされるスジョン。血みどろの手術に嬉々として挑む医師ギユン…。死と痛みと悲しみ、回復と再生の物語がすれ違い、交錯する。韓国文学をリードする若手作家による、めくるめく連作短編集。

読売新聞 2020/03/28

2018/9./ 485p

978-4-7505-1564-9

本体 ¥2,200+税



もしも刑務所に入ったら～「日本一刑務所に入った男」による禁断解説～(ワニブックスPLUS新書 283)

河合 幹雄 著

ワニブックス

法務省刑事施設視察委員会委員長として、刑務所だけでなく少年院や女子少年院など、全国各地の矯正施設を視察してきた著者が、入所から退所するまでの流れ、受刑者たちの生活実態、刑務所の現状などを解説する。

読売新聞 2020/03/28

2019/12./ 204p

978-4-8470-6635-1

本体 ¥830+税



90歳セツの新聞ちぎり絵

里山社

夫を亡くし、90歳で始めた新聞ちぎり絵で才能が開花した著者。精緻でありながらユーモラスで可愛らしい作品の数々を著者の言葉を添えて紹介するほか、作品ができるまでの工程、これまでの人生を語ったインタビューも収録。

読売新聞 2020/03/28

2020/2./ 111p

978-4-907497-10-1

本体 ¥1,800+税



失礼な日本語(ポプラ新書 190)

岩佐 義樹 著

ポプラ社

誤字や文法的に不適切な言葉、つながりのおかしい文章を知らず知らずのうちに使っていませんか。毎日新聞社の校閲センターで日々、誤字・脱字と格闘するベテラン校閲記者が、正確で読みやすい文章を書くための基本を解説する。

読売新聞 2020/03/28、毎日新聞 2020/03/28

2020/3./ 219p

978-4-591-16643-7

本体 ¥860+税



日本中世への招待(朝日新書 749)

呉座 勇一 著

朝日新聞出版

山伏や陰陽師などにより祈りが捧げられた出産、口を開けて舌を出したり、唾を飛ばすことを戒める武家の家訓、死傷者まで出た子どもの日の石合戦…。戦ばかりではない、知られざる中世日本人の姿に迫る。

日本経済新聞 2020/03/14

2020/2./ 284p

978-4-02-295057-4

本体 ¥850+税



戦車将軍グデーリアン～「電撃戦」を演出した男～(角川新書 K-310)

大木 毅 著

KADOKAWA

第二次世界大戦の緒戦を華々しく飾ったドイツ装甲集団を率いた将軍にして、「電撃戦」の生みの親とされた男、グデーリアン。ところが、「電撃戦」というドクトリンは存在しなかった。「戦車将軍」の仮面を?ぐ評伝。

日本経済新聞 2020/03/14

2020/3./ 341p

978-4-04-082321-8

本体 ¥900+税





九十八歳になった私(講談社文庫 は 5-10)

橋本 治 著

講談社

時は 2046 年。東京大震災を生き延びた、独居老人で元小説家の「私」のもとを、ボランティアのバーさんや、ゆとり世代の編集者など、さまざまな人たちが訪れる…。人生百年時代に捧ぐ、橋本流老後賛歌。

2020:1./ 246p

978-4-06-518330-4

本体 ¥660+税



日本経済新聞 2020/03/14



まんが親～実録!漫画家夫婦の子育て愉快絵図～<5>(BIG COMICS SPECIAL)

吉田 戦車 著

小学館

娘、はや小学一年生。笑いと涙の完結巻!!“まんが親”の、そして“まんが一家”の日々はずっと続くけれど、漫画はこれにて完結!めんどくさいけど、おかしくて愛おしい。「家族っていいな」と思い出させてくれる瞬間が詰まっています。

2017:3./ 132p

978-4-09-189474-8

本体 ¥743+税



日本経済新聞 2020/03/14



2010s

宇野 維正／田中 宗一郎 著

新潮社

レディー・ガガ、ラップ、スポティファイ、マーベル、ネットフリックス…。世界を変えた 2010 年代を総括。日本の文化受容に警鐘を鳴らし、来る 2020 年代を展望する、過激にして濃厚なポップ・カルチャー論。

2020:1./ 351p

978-4-10-353131-9

本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2020/03/14



東京五輪の残像～1964 年、日の丸を背負って消えた天才たち～(中公文庫 に 23-1)

西所 正道 著

中央公論新社

1964 年の東京五輪に参加した日本選手 357 人は、人生の第二章をどう生きたか。日の丸という十字架を背負った選手たちがどのような格闘をし、何を果たしたのかを追ったスポーツ・ノンフィクション。

2020:2./ 353p

978-4-12-206840-7

本体 ¥880+税



日本経済新聞 2020/03/14



LIFE3.0～人工知能時代に人間であるということ～

マックス・テグマーク、水谷 淳 著

紀伊國屋書店出版部

労働、法律、軍事、倫理から、生命と宇宙、機械の意識まで、超知能 AI が出現したら何が起こるのか。AI 安全性研究を牽引する著者が、来るべき世界の姿と生命の究極の未来を考察する。

2019:12./ 509p

978-4-314-01171-6

本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2020/03/14



「家族の幸せ」の経済学～データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実～(光文社新書 1015)

山口 慎太郎 著
光文社

「赤ちゃんには母乳が一番」「3歳までは母親がつきっきりで子育てすべき」は間違い! 出産や子育てにおいて幅をきかせる科学的根拠を一切無視した「思い込み」を、気鋭の学者が最先端の経済学的手法で徹底的に論破する。

2019/7./ 259p
978-4-334-04422-0
本体 ¥820+税



日本経済新聞 2020/03/14



数学と文化(ちくま学芸文庫 セ3-5)

赤 堀也 著
筑摩書房

いったい数学とは何ものなのだろうか。数の始原から始め、ユークリッドの「原論」、パスカルの「幾何学的精神について」、確率論、数理統計などを概観。数学の歴史と思想、文化の根本に迫った入門解説。

2020/2./ 216p
978-4-480-09970-9
本体 ¥1,100+税



日本経済新聞 2020/03/14



教養の書

戸田山 和久 著
筑摩書房

教養とはそもそも何か。なぜ大切なのか。教養への道をさえぎるものは何であり、その道を進むためにどんな装置が必要なのか。学び生きるうえで大切なすべてを伝える入門講義。『ちくま』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

2020/2./ 414p
978-4-480-84320-3
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/14



日本型プラットフォームビジネス

小宮 昌人/楊 皓/小池 純司 著
日本経済新聞出版社

GAFA と戦わずして勝者を目指す! ニッチな分野でプラットフォーマーとなるか、メガと提携するか。新しいプラットフォーム時代におけるビジネス展開の方向性を、国内外の成功・萌芽事例を使いながら解説する。

2020/1./ 230p
978-4-532-32309-7
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/14



ノンフィクションの技法～ピューリッツァー賞作家が明かす～

ジョン・マクフィー 著
白水社

執筆にあたっての技術的なノウハウや考え方から米国出版業界の舞台裏に至るまで、アメリカの雑誌ジャーナリズムを長年牽引してきた達人が、ノンフィクションの極意を伝授する。『ニュー Yorker』掲載を書籍化。

2020/2./ 253p
978-4-560-09749-6
本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2020/03/14



絶滅動物は甦らせるべきか?～絶滅種復活の科学、倫理、リスク～

ブリット・レイ、高取 芳彦 著
双葉社

ケナガマンモス、リョコウバトなど、「失われた生物」たちを甦らせる最新の遺伝子科学。われわれは“禁断の領域”に踏み込んでいるのか? 絶滅種再生の最前線に立つ科学者らにインタビューし、倫理やリスクについて考える。

2020/1./ 443p
978-4-575-31525-7
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2020/03/14



桃尻娘(ポプラ文庫)

橋本 治 著

ポプラ社

女子高校生・榎原玲奈の生き生きとした一人称で語られる物語で、鮮烈なデビューを果たし、その後の現代小説の流れを変えた、橋本治...

2010:6./ 445p

978-4-591-11755-2

本体 ¥680+税



日本経済新聞 2020/03/14



河口慧海～雲と水との旅をするなり～(ミネルヴァ日本評伝選)

高山 龍三 著

ミネルヴァ書房

仏教の原典を求め日本人として初めてチベット・ラサへ潜入した河口慧海は、ナルタン版大蔵経等の仏典を入手し、チベットの文化、仏教の研究・紹介に努めた。仏教学者にして、型破りな稀代の探検家の情熱的な生涯を追う。

2020:1./ 16p,372p,8p

978-4-623-08784-6

本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2020/03/14



江戸の乳と子ども～いのちをつなぐ～(歴史文化ライブラリー 441)

沢山 美果子 著

吉川弘文館

女性から分泌される“乳”が赤子の命綱だった江戸時代、母親の出産死や乳の出が悪い場合、人びとは貰い乳や乳母を確保するため奔走した。乳をめぐる人の?がりを探り、子どもを育てるネットワーク形成の意味を考える。

2017:1./ 6p,220p

978-4-642-05841-4

本体 ¥1,700+税



日本経済新聞 2020/03/14



日本のセーフティーネット格差～労働市場の変容と社会保険～

酒井 正 著

慶應義塾大学出版会

誰が「皆保険」から漏れ落ちているのか。社会保険を中心とするセーフティーネットが直面している課題を、「就業」という切り口から検討。今後の改革のための指針をエビデンスをもとに模索する。

2020:2./ 18p,331p

978-4-7664-2649-6

本体 ¥2,700+税



日本経済新聞 2020/03/14



教育・権力・社会～ゆとり教育から入試改革問題まで～

大内 裕和 著

青土社

1990年代に入ってから、教育の新自由主義改革が本格化した。この20年間に射程に、世間を賑わした教育改革の問題への、日本を代表する教育社会学による応答。『現代思想』掲載の論文を書籍化。

2020:1./ 414p

978-4-7917-7244-5

本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2020/03/14



銃・病原菌・鉄～一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎～<上巻>(草思社文庫 ダ1-1)

ジャレド・ダイヤモンド 著

草思社

アメリカ大陸の先住民はなぜ、旧大陸の住民に征服されたのか。世界に広がる富とパワーの「地域格差」を生み出したものとは。人類史に隠された壮大な謎を、広範な知見を駆使して解き明かす。

2012:2./ 395p,17p

978-4-7942-1878-0

本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/03/14



銃・病原菌・鉄～一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎～<下巻>(草思社文庫 ダ 1-2)
 ジャレド・ダイヤモンド 著
 草思社
 世界史の勢力地図は侵略と淘汰が繰り返される中で幾度となく塗り替えられてきた。勝者と敗者を分けた要因とは、地域による差を生み出した真の要因とはなにか。人類史に隠された壮大な謎を、広範な知見を駆使して解き明かす。

2012:2./ 412p,18p
 978-4-7942-1879-7
 本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/03/14



人間の性はなぜ奇妙に進化したのか(草思社文庫 ダ 1-5)
 ジャレド・ダイヤモンド、長谷川 寿一 著
 草思社
 ヒトの性は動物と比べてじつは奇妙である。ハーレムをつくるゴリラや夫婦で子育てをする水鳥、乳汁を分泌するオスのヤギやコウモリなど動物の性の“常識”と対比させながら、人間の奇妙なセクシャリティの進化を解き明かす。

2013:6./ 234p
 978-4-7942-1978-7
 本体 ¥700+税



日本経済新聞 2020/03/14



歴史としての日教組<上巻> 結成と模索
 広田 照幸 編
 古賀 徹／宇内 一文／布村 育子／高木 加奈絵／松嶋 哲哉／長嶺 宏作／徳久 恭子／富士原 雅弘／香川 七海 著
 名古屋大学出版会
 膨大な非公開史料や関係者へのインタビューに基づき、日教組の歴史を学術的に徹底検証。上は、戦後の労働運動での立ち位置から、独自の教育理念や「教師の倫理綱領」の作成まで、初期の模索を跡づける。

2020:2./ 6p,311p,16p
 978-4-8158-0972-0
 本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2020/03/14



歴史としての日教組<下巻> 混迷と和解
 広田 照幸 編
 末富 芳／筒井 美紀／田中 真秀／香川 七海／植上 一希／佐藤 晋平／小野 方資 著
 名古屋大学出版会
 膨大な非公開史料や関係者へのインタビューに基づき、日教組の歴史を学術的に徹底検証。下は、1980年代の労働戦線の再編から、教育運動の転換、文部省との「歴史的和解」まで、新たな路線選択の時代に迫る。

2020:2./ 6p,303p,14p
 978-4-8158-0973-7
 本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2020/03/14



「ユダヤ」の世界史～一神教の誕生から民族国家の建設まで～
 臼杵 陽 著
 作品社
 一神教の誕生、離散と定住、キリスト教・イスラームとの共存・対立、国際的ネットワークの展開、迫害の悲劇、現在の紛争・テロ問題…。ユダヤ人の歴史を世界史の流れの中で叙述。イスラエル国とアラブ諸国との関係にも触れる。

2020:1./ 406p,14p
 978-4-86182-757-0
 本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2020/03/14



韓国が嫌いで

チャン ガンミョン、吉良 佳奈江 著
ころから

韓国社会が押しつけてくる生きづらさに、屈するものかともがいて国外脱出する韓国女性ケナ。留学生としてオーストラリアに渡るが…。韓国の男性作家によるフェミニズム小説。

2020:1./ 158p
978-4-907239-46-6
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/14



シマダス〜日本の島ガイド〜 新版

日本離島センター 編
日本離島センター

北海道から沖縄県まで全国 1750 の島々を収めたガイド。人口・面積、島への交通といった基本データや、みどころ、特産物、やど等の観光情報、生活、学校、医療などの情報を島ごとに紹介する。巻末に索引図も収録。

2019:10./ 1711p 図
版 40 枚
978-4-931230-38-5
本体 ¥4,000+税



日本経済新聞 2020/03/14



御社のチャラ男

絲山 秋子 著
講談社

チャラ男って本当にどこにでもいるんです。一定の確率で必ず-。社内でひそかにチャラ男と呼ばれている三芳部長。彼のまわりの人びとが彼を語ることで、この世界と私たちの「現実」が見えてきて…。『群像』連載を単行本化。

2020:1./ 317p
978-4-06-517809-6
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/14、朝日新聞 2020/03/28



兵士たちの戦後史〜戦後日本社会を支えた人びと〜(岩波現代文庫 学術 416)

吉田 裕 著
岩波書店

アジア・太平洋戦争の敗戦後、生き残った兵士たちは市民として社会の中に戻っていった。兵士としての経験は、彼らのその後の人生をどのように規定していったのか。戦後日本の政治文化を支えた人びとの意識の変遷を辿る。

2020:2./ 7p,367p,5p
978-4-00-600416-3
本体 ¥1,540+税



日本経済新聞 2020/03/21



ベトナム戦争と私〜カメラマンの記録した戦場〜(朝日選書 993)

石川 文洋 著
朝日新聞出版

戦闘地での夜営、空挺部隊のカンボジア国境作戦、米海兵隊に従軍、最大の激戦・ケサン基地攻防、サイゴン陥落…。サイゴンに 1965?68 年に住み、南北両方からベトナム戦争を撮影した写真家による記録。

2020:2./ 413p
978-4-02-263093-3
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2020/03/21



建国神話の社会史〜史実と虚偽の境界〜(中公選書 102)

古川 隆久 著
中央公論新社

「古事記」「日本書紀」の記述が国によって「歴史的事実」とされた時、普通の人々は科学や民主主義との矛盾をどう乗り越えようとしたのか。建国神話が近代日本社会と戦後日本社会にもたらした影響を探る。

2020:1./ 262p
978-4-12-110102-0
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2020/03/21



地経学とは何か(文春新書 1251)

船橋 洋一 著

文藝春秋

地政学的な目的のために経済を武器として使う地経学。米中の覇権争いを筆頭に、世界ではジオエコノミクスの闘いが繰り広げられている。世界のルールと秩序を巡る新たな主戦場について解説。『文藝春秋』連載を書籍化。

2020.2./ 310p

978-4-16-661251-2

本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/03/21



コーポレートファイナンスの原理 第9版

Stephen A. Ross、Randolph W. Westerfield、Jeffrey F. Jaffe 著

金融財政事情研究会

著名 MBA スクールの教員・学生たちの厳しい選択眼に耐え育てられてきた基本書を、Executive Summary から章末問題まで丸ごと完訳。コーポレートファイナンスの原理を伝える日本語バイブル。原著 9 版の翻訳。

2012.10./ 40p,1554p

978-4-322-11338-9

本体 ¥10,000+税



日本経済新聞 2020/03/21



「間合い」とは何か～二人称的身体論～

諏訪 正樹、伝 康晴、坂井田 瑠衣、高梨 克也 著

春秋社

野球、サッカーから、何げない会話まで、「間合い」は至るところに存在する。間合いを形成するために、身体は何を成し遂げているのかを考察。主観と客観の壁を乗り越え、「人間らしさ」に迫った一冊。

2020.2./ 262p

978-4-393-37331-6

本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2020/03/21



EU 離脱～イギリスとヨーロッパの地殻変動～(ちくま新書 1477)

鶴岡 路人 著

筑摩書房

イギリスの EU 離脱についてイギリスと EU 双方から分析。イギリスの内政問題という理解を超え、新たなヨーロッパ統合のあり方を見通す。東京財団政策研究所のウェブサイトでの連載をもとに書籍化。

2020.2./ 256p,14p

978-4-480-07287-0

本体 ¥860+税



日本経済新聞 2020/03/21



鉄の門(創元推理文庫 Mミ 1-10)

マーガレット・ミラー 著

東京創元社

16 年前に死亡した親友の夫である医師のアンドルーと再婚したルシールは、継子や義妹との関係に悩み続けていた。ある冬の日、謎の小箱を受け取ったルシールは何も言い残さず姿を消し…。ミラーの初期を代表する傑作の新訳。

2020.2./ 343p

978-4-488-24710-2

本体 ¥1,040+税



日本経済新聞 2020/03/21



くずし字解説辞典 毛筆版

児玉 幸多 著

東京堂出版

行草体で書かれた「くずし字」を 5 つの部首に分類し、起筆順に配列。くずした字の形からもとの漢字がすぐに分かる、画期的な辞典。日本史や国文学、書道などの学習、古文書や掛軸の解説などに必携の一冊。93 年刊の毛筆版。

1999.9./ 353, 6

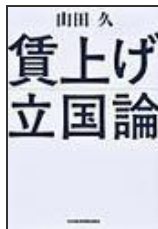
1 p

978-4-490-10522-3

本体 ¥3,500+税



日本経済新聞 2020/03/21



賃上げ立国論

山田 久 著

日本経済新聞出版社

日本の賃金は低過ぎる！日本が豊かな社会を維持するために、賃金低迷の犯人、賃上げが必要な本当の理由を示し、「生涯賃金 3 割増」を実現する国家戦略を提示する。スウェーデンの賃上げを基軸にした社会経済モデルも紹介。

日本経済新聞 2020/03/21

2020:2./ 271p

978-4-532-35849-5

本体 ¥1,800+税



刑法～総論～<1>

平野 竜一 著

有斐閣

日本経済新聞 2020/03/21

1972:7./ 207p

978-4-641-04018-2

本体 ¥2,200+税



不平等と再分配の経済学～格差縮小に向けた財政政策～

トマ・ピケティ 著

明石書店

経済的不平等の原因を資本と労働の関係から理論的に分析するとともに、その解消のために最も重要な方法として、租税と資金移転による財政的再分配の役割を説く。「21 世紀の資本」の原点ともいえる書。

日本経済新聞 2020/03/21

2020:2./ 225p

978-4-7503-4975-6

本体 ¥2,400+税



妖怪草紙～くずし字入門～(シリーズ日本人の手習い)

アダム・カバット 著

柏書房

江戸の草双紙に登場する愉快な妖怪たちがナビゲーターのユニークなくずし字入門書。著者秘伝の「ステップアップ」で基本文字 150 を確実に習得。練習問題、コラムも充実。

日本経済新聞 2020/03/21

2001:7./ 222p

978-4-7601-2092-5

本体 ¥2,300+税



森?外事典

平川 ?弘 編

新曜社

軍医として最高位まで上りつめた軍人でもあった文豪・森?外。その全貌と魅力を生き生きと伝える事典。338 項目を収録。事項、作品・雑誌名、人名の索引付き。

日本経済新聞 2020/03/21

2020:1./ 15p,744p

978-4-7885-1658-8

本体 ¥12,000+税



旅の効用～人はなぜ移動するのか～

ペール・アンデション 著

草思社

不機嫌という病を治すには、自分の安全領域から外に飛び出すことだ-。世界を旅したスウェーデンのジャーナリストが「人が旅に出る理由」を重層的に考察した、味わい深い旅論。読めば放浪したくなる旅行記 22 点も紹介する。

日本経済新聞 2020/03/21

2020:1./ 351p

978-4-7942-2436-1

本体 ¥2,200+税





ビジョナリー・カンパニー弾み車の法則

ジム・コリンズ、土方 奈美 著

日経BP社

飛躍するためのキーコンセプト「弾み車の法則」にフォーカスし、その基本的な考え方と活用ノウハウ、「自分の弾み車」をつくるポイントを簡潔かつ具体的に解説する。インテル、アップル、アマゾンなどの事例も紹介。

2020:1./ 91p

978-4-8222-8860-0

本体 ¥1,200+税



日本経済新聞 2020/03/21



ポール・ローマーと経済成長の謎

デヴィッド・ウォルシュ (David Warsh) 著

日経BP社

技術革新を経済成長論に取り込んだことで 2018 年にノーベル経済学賞を受賞したポール・ローマー。経済学者としては異色の生き方をしたローマーを縦糸に、経済成長論の変遷を横糸として、古今の経済学者の人間劇を描く。

2020:1./ 657p

978-4-8222-8871-6

本体 ¥2,800+税



日本経済新聞 2020/03/21



アルジェリア、シャラ通りの小さな書店

カウテル・アディミ、平田 紀之 著

作品社

1930 年代半ばにアルジェに書店兼出版社を開き、以後 30 年以上にわたりアルベール・カミュや多くの優れた文学書を世に出した実在の伝説的出版人の波乱に満ちた半生を描く。ゴンクール賞、ルノー賞候補作。

2019:11./ 237p

978-4-86182-784-6

本体 ¥2,200+税



日本経済新聞 2020/03/21



騒音の文明史～ノイズ都市論～

原 克 著

東洋書林

寺の鐘、拍子木、サイレン、ラジオ…。19 世紀末?20 世紀前半の東京を舞台に、さまざまなメディアに表出した庶民の織りなす音風景を、ヨーロッパ思想の援用を踏まえて博搜。騒音の歴史を通して日本の近代をあぶりだす。

2020:1./ 431p

978-4-88721-827-7

本体 ¥3,800+税



日本経済新聞 2020/03/21



ウイグル人

トルグン・アルマス、東 綾子 著

集広舎

アジアを駆けた誇り高き男たち、女たちのドラマ。1989 年に東トルキスタンで出版された、ウイグル人歴史家によるウイグルの歴史書。ウイグル・カガン国からカラハン朝、天山ウイグル国、甘州ウイグル国までを収録。

2019:12./ 469p

978-4-904213-84-1

本体 ¥4,545+税



日本経済新聞 2020/03/21



茶聖～Sen no Rikyu～

伊東 潤 著

幻冬舎

茶の湯という一大文化を完成させ、天下人・豊臣秀吉の側近くに仕えた千利休。利休は何を目指し、何を企んでいたのか。その謎めいた心根と切腹の真相に迫る歴史大河ロマン。『山口新聞』等掲載を加筆・修正。

2020:2./ 525p

978-4-344-03569-0

本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2020/03/21、産経新聞 2020/03/22



友だち(CREST BOOKS)
シーグリッド・ヌーネス 著
新潮社

誰よりも心許せる男友だちが命を絶ち、喪失感を抱えた女性作家。そこに男が飼っていた巨大な老犬が転がり込んできた。狭いアパートで寄り添うふたつの孤独は、言葉を介さない友情でかく結ばれてゆき…。

2020:1./ 253p
978-4-10-590163-9
本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2020/03/21、東京・中日新聞 2020/03/29



まむし三代記
木下昌輝 著
朝日新聞出版

まむしと呼ばれた斎藤道三の、日ノ本すら破壊する最終兵器“国滅ぼし”とは？その核心に行き着いた三代目義龍が下した驚愕の決断とは？従来の戦国史を根底から覆す長篇時代小説。

2020:2./ 448p
978-4-02-251664-0
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/28



夫婦善哉 決定版(新潮文庫 お-2-1)
織田 作之助 著
新潮社

惚れた弱みか腐れ縁か、ダメ亭主柳吉に尽くす女房蝶子…。大阪文学の名作「夫婦善哉」に、新発見の幻の続編を収録した決定版。ほか、「木の都」「六白金星」「アド・パルーン」など全7篇を所収。

2016:9./ 304p
978-4-10-103702-8
本体 ¥520+税



日本経済新聞 2020/03/28



君がいないと小説は書けない
白石 一文 著
新潮社

最愛の女性・ことりと生活している私。だが、ことりの母親の病気がきっかけで、私たちは別居生活を余儀なくされる。そしてある日を境に、私はことりへの猜疑の念に囚われてしまい…。自伝的小説。『小説新潮』連載を単行本化。

2020:1./ 443p
978-4-10-305656-0
本体 ¥1,900+税



日本経済新聞 2020/03/28



台湾の歴史と文化～六つの時代が織りなす「美麗島」～(中公新書 2581)
大東 和重 著
中央公論新社

街路に残る古跡や廟、人々に愛される名物料理、信仰と祭り…。台湾の文化は、各時代の外来政権との関係によって形作られてきた。激動の台湾を生きた人々の視点から、多様な文化の魅力を活写し、400年におよぶ歴史をたどる。

2020:2./ 6p,269p
978-4-12-102581-4
本体 ¥900+税



日本経済新聞 2020/03/28



自由の命運～国家、社会、そして狭い回廊～<上>
ダロン・アセモグル／ジェームズ・A・ロビンソン 著
早川書房

自由の命運を握る「狭い回廊」とは？内戦下のシリアから古代ギリシア、建国期のアメリカ合衆国、現代中国まで、古今東西の豊富な歴史研究をもとに、ますます貴重になりつつある自由を保つための国家と社会の力関係を論じる。

2020:1./ 417p
978-4-15-209910-5
本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2020/03/28



自由の命運～国家、社会、そして狭い回廊～<下>
ダロン・アセモグル／ジェイムズ・A・ロビンソン 著
早川書房

自由の命運を握る「狭い回廊」への道は一樣ではなく、そこに留まるのも容易ではない。中国の繁栄に潜む罠、「規範の檻」に縛られたインド…。リヴァイアサンの統御法と回廊内に留まるすべを、歴史の教訓から浮かび上がらせる。

2020:1./ 484p
978-4-15-209911-2
本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2020/03/28



みずほ銀行システム統合、苦闘の19年史～史上最大のITプロジェクト「3度目の正直」～

日経コンピュータ／山端 宏実／岡部 一詩／中田 敦／大和田 尚孝／谷島 宣之 著
日経B P 社

「4千億円台半ば」を投じた勘定系システムの構築プロジェクトとは-。みずほフィナンシャルグループにおけるシステムの刷新と統合に関わる19年史を紹介する。『日経コンピュータ』ほか掲載をもとに書籍化。

2020:2./ 253p
978-4-296-10535-9
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/28



邂逅～クンデラ文学・芸術評論集～(河出文庫 ク13-1)

ミラン・クンデラ 著
河出書房新社

ラブレ、ドストエフスキー、セリヌ、カフカ、フェリーニ…。存命中に「プレイヤード叢書」に収録されるという類い稀なる名誉を得た著者が、愛する小説、絵画、音楽、映画を論じた評論集。

2020:3./ 252p
978-4-309-46712-2
本体 ¥1,400+税



日本経済新聞 2020/03/28



東京駅コンシェルジュの365日～業務日誌に見る乗客模様～(交通新聞社新書141)

渡辺雅史 著
交通新聞社

「ステーションコンシェルジュ東京」には、多くの人たちが様々な困りごとを抱えてやってくる。「わかりませんとは言いません」をモットーに、あらゆる「難問」に応えるコンシェルジュたちの「業務日誌」を公開する。

2020:2./ 239p
978-4-330-02020-4
本体 ¥800+税



日本経済新聞 2020/03/28



橋爪節也の大阪百景

橋爪 節也 著
創元社

大阪の文化の地層を掘り起こす100コラム。言葉、人物、絵画、文学などから、本物の都市文化とその魅力を語る。キーワード索引付き。『いちょう並木』連載「おおさかKEYワード」から100回分を選定し大幅加筆・改訂。

2020:2./ 302p
978-4-422-25088-5
本体 ¥1,800+税



日本経済新聞 2020/03/28



地域活性マーケティング(ちくま新書 1479)

岩永 洋平 著

筑摩書房

ふるさと納税をはじめとする政府と自治体の政策や地方の事業者の実践を検証し、望ましい地域発展、地域支援のありかたをマーケティングの視点から考える。さらに、地方が地域産品でいかに稼ぐか、実践に役立つ方針も示す。

2020.2./ 258p

978-4-480-07284-9

本体 ¥860+税



日本経済新聞 2020/03/28



歴史人口学事始め〜記録と記憶の九〇年〜(ちくま新書 1475)

速水 融 著

筑摩書房

歴史人口学の泰斗、速水融の遺著。戦中の勤労動員、ヨーロッパの先端研究の導入、網野善彦や梅原猛との出会い、時刻表をヒントにしたデータシートの考案など、90年間の学問人生を回顧し、人口減少社会の未来を考察する。

2020.2./ 332p

978-4-480-07299-3

本体 ¥1,000+税



日本経済新聞 2020/03/28



新しい地政学

北岡 伸一／細谷 雄一 編

東洋経済新報社

トランプ、中国の軍備増強、中東情勢、ブレグジット…。「地政学の再台頭」「新しい地政学」と言われる現象について、2015?18 年に行われた共同研究「新しい地政学の時代における国際秩序を考える」の成果をまとめる。

2020.2./ 421p

978-4-492-44456-6

本体 ¥2,400+税



日本経済新聞 2020/03/28



経営改革大全〜企業を壊す100の誤解〜

名和 高司 著

日本経済新聞出版社

株主重視、働き方改革、オープンイノベーション…。世に出回る経営モデルの間違いを指摘し、それらをいかに正しく理解すべきかを、100の通説と真説という形で列挙。日本企業の強みを生かした再成長するためのヒントが満載。

2020.2./ 431p

978-4-532-32328-8

本体 ¥2,500+税



日本経済新聞 2020/03/28



ストリートアートの素顔〜ニューヨーク・ライティング文化〜

大山 エンリコイサム 著

青土社

20 世紀アメリカが生んだ世界最大の視覚文化=ストリートアート。ジャン=ミシェル・バスキア、キース・ヘリングら、ニューヨークを拠点とする、ストリートアートに関わりの深いアーティスト 12 名を紹介する。

2020.1./ 252p

978-4-7917-7243-8

本体 ¥2,600+税



日本経済新聞 2020/03/28



LOONSHOTS〜クレイジーを最高のイノベーションにする〜

サフィ・バーコール 著

日経BP社

企業戦略、新薬開発から戦争、社会問題まで、世界を覆す究極のしくみ「ルーンショット」。“普通の組織”を、周囲からクレイジーだと否定される(実は革新的な)アイデアを生む組織に変える方法を科学する。

2020.1./ 502p

978-4-8222-8863-1

本体 ¥2,000+税



日本経済新聞 2020/03/28



日本を襲ったスペイン・インフルエンザ～人類とウイルスの第一次世界戦争～

速水 融 著

藤原書店

関東大震災の5倍近くの死者をもたらしながら、「スペイン風邪」と称され、被害の実態も十分に把握されないまま忘却された、90年前の史上最悪の「新型インフルエンザ」について、各種資料を駆使し、その詳細を明かす。

2006.2./ 474p

978-4-89434-502-7

本体 ¥4,200+税



日本経済新聞 2020/03/28



追跡金正男暗殺

乗京 真知／朝日新聞取材班 著

岩波書店

マレーシアの空港で暗殺された、北朝鮮の最高指導者金正恩の異母兄・金正男。彼はなぜ殺されたのか、実行犯は何者なのか？現地警察から実行犯の家族、そして金正男の友人までを綿密に取材し、暗殺劇の真実を炙り出す。

2020.1./ 18p,187p

978-4-00-061386-6

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2020/03/01



ものがたり日本音楽史(岩波ジュニア新書 909)

徳丸 吉彦 著

岩波書店

素朴な鈴や石の笛に始まり、仏教音楽の伝来、雅楽・能楽・歌舞伎・文楽の誕生と変化、文明開化による西洋音楽の導入、現代邦楽…。はるか縄文の昔から日本で育まれてきた、さまざまな音楽の歴史をたどる。

2019.12./

6p,225p,11p

978-4-00-500909-1

本体 ¥940+税



毎日新聞 2020/03/01



如何様

高山 羽根子 著

朝日新聞出版

復員した画家・平泉貫一は、出征前と同じ人物なのか。似ても似つかぬ姿で帰ってきたものの、男は失踪してしまい…。『小説トリッパー』掲載の表題作ほか、『文学ムック たべるのがおそい』掲載の「ラピード・レチェ」も収録。

2019.12./ 148p

978-4-02-251659-6

本体 ¥1,300+税



毎日新聞 2020/03/01



天上の葦<上>(角川文庫 お75-4)

太田 愛 著

KADOKAWA

渋谷の交差点で何もない空を指して老人が絶命し、同じ日、公安警察官の山波が姿を消した。老人の調査を依頼された興信所の鍵水と修司、山波の捜査を命じられた刑事の相馬。2つの事件が結ばれた先で進む、未曾有の犯罪とは…。

2019.11./ 543p

978-4-04-108414-4

本体 ¥840+税



毎日新聞 2020/03/01



天上の葦<下>(角川文庫 お75-5)

太田 愛 著

KADOKAWA

山波を追う鍵水たちが辿り着いたのは、瀬戸内海の小島だった。そこでは、渋谷で老人が絶命した瞬間から、大きな歯車が回り始めていた。穏やかな島の営みの裏に隠されたトリックを暴いた時、痛ましい真実の扉が開かれる…。

2019.11./ 478p

978-4-04-108415-1

本体 ¥800+税



毎日新聞 2020/03/01



北京故事藍宇

北京同志、九月 著

講談社

女も男もなく性に耽っていた北京の若き実業家・陳捍東は、ある日、東北出身の学生藍宇を金で買う。藍宇にとって捍東は初めての性の相手だった…。男が男を愛する運命の出会い、天安門事件で揺れる北京の街。映画「藍宇」原作。

2003:9./ 254p

978-4-06-211786-9

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/03/01



サピエンス日本上陸～3 万年前の大航海～

海部 陽介 著

講談社

私たちの祖先はなぜ日本へ来たのか。水平線の先にある島の存在を彼らは知っていたのか。世界最大級の海流・黒潮をどうやって越えたのか。現代人が命がけの実験航海を行い、そこから見えてきた「祖先たちの本当の姿」を伝える。

2020:2./ 335p

978-4-06-518554-4

本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2020/03/01



動物に「心」は必要か～擬人主義に立ち向かう～

渡辺 茂 著

東京大学出版会

動物の「心」は人間から類推できる/すべきものなのか。擬人主義に飲み込まれつつある心理学の歴史を振り返りながら、人間を特別視する思想の起源と危険性を問う。『UP』連載に加筆し書籍化。

2019:12./ 4p,246p

978-4-13-013314-2

本体 ¥2,700+税



毎日新聞 2020/03/01



生きてく工夫

南 伸坊 著

春陽堂書店

できればたのしく、のんびりいきたい。骨粗鬆症、めまい、狭心症。高齢になって起こりがちな症状に、びっくりしたり、あわてたりした、著者のちょっと笑える「どたばた」報告。『きょうの健康』連載に加筆修正し単行本化。

2019:12./ 253p

978-4-394-90358-1

本体 ¥1,600+税



毎日新聞 2020/03/01



アメリカ情報・文化支配の終焉(PHP 新書 1208)

石澤 靖治 著

PHP 研究所

トランプに挑むプーチンのロシア、習近平の中国。モノ言わぬ安倍の日本はどうする? RT、NED、孔子学院、シャープ・パワー...「国際社会における正義と世論形成を争奪する戦争」の行方を追う。

2019:12./ 283p

978-4-569-84583-8

本体 ¥900+税



毎日新聞 2020/03/01



荒れ野の六十年～東アジア世界の歴史地政学～

與那覇 潤 著

勉誠出版

東アジアで共有できる歴史を追い求めたのは、日清戦争の開戦から朝鮮戦争の休戦までの「荒野の六十年」が残した近代の爪痕にすぎなかったのではない。不毛な論争に終止符を打つ、気鋭の歴史学者による最後の論文集。

2020:1./ 21p,363p

978-4-585-22264-4

本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2020/03/01



反穀物の人類史～国家誕生のディープヒストリー～

ジェームズ・C.スコット、立木 勝 著

みすず書房

豊かな採集生活を謳歌した「野蛮人」は、いかにして古代国家に家畜化されたのか？ 国家形成における穀物の役割とは？ 農業国家による強制の手法とは？ 考古学、人類学などの最新成果をもとに、壮大な仮説を提示する。

2019:12./

15p,232p,42p

978-4-622-08865-3

本体 ¥3,800+税



毎日新聞 2020/03/01



娘について(となりの国のものがたり 02)

キム・ヘジン 著

亜紀書房

老人介護施設で働く「私」の家に、住む場所をなくした 30 代半ばの娘が転がりこんできた。しかも、パートナーの女性を連れて…。LGBT、母子の関係、老いというテーマを正面から見つめた傑作長編。

2018:12./ 229p

978-4-7505-1568-7

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2020/03/01



弟は躁うつ病～双極性障害四十年の記録～

木内 徹 著

星和書店

二十歳のときに躁うつ病(双極性障害)を発症した弟。その病がもたらす騒動に、次第に兄とその家族が巻き込まれて…。40 年にわたり弟の躁うつ病と格闘してきた人生を描いた、実話に基づく物語。

2020:1./ 193p

978-4-7911-1041-4

本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2020/03/01



まばゆい残像～そこに金子光晴がいた～(わたしの旅ブックス 017)

小林 紀晴 著

産業編集センター

若い頃、詩人・金子光晴の放浪の旅を道標に、世界を旅した小林紀晴。30 年の時を経た今でもなお鮮烈な記憶として残るそれらの旅を振り返り、新たな紀行として書き下ろしたフォトエッセイ。金子光晴の詩文も併載。

2019:11./ 136p

978-4-86311-246-9

本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2020/03/01



惑郷の人(台湾文学セレクション 4)

郭 強生、西村 正男 著

あるむ

1973 年、台湾東部の吉祥鎮に日本から映画のロケ隊がきた。撮影のため吉祥戯院の付近が日本統治時代のように姿をかえ…。第二次世界大戦中から 2010 年までの場面が交錯する長篇小説。周縁の人生を幽明のあわいに描く。

2018:11./ 329p

978-4-86333-147-1

本体 ¥2,300+税



毎日新聞 2020/03/01



消えゆくアラル海～再生に向けて～

石田 紀郎 著

藤原書店

湖面積が琵琶湖の 100 倍あった世界第 4 位の湖、中央アジアのアラル海。それが、大規模な農地開発により、琵琶湖のたった 10 個分にまで縮小した。カザフスタンに通いつめた著者が、アラル海消滅の現実と再生への希望を描く。

2020:1./ 342p

978-4-86578-251-6

本体 ¥2,900+税



毎日新聞 2020/03/01



ブツァーティ短篇集<3> 怪物

ディーノ・ブツァーティ、長野 徹 著

東宣出版

人類に癒しがたい懊悩をもたらした発見を語る「一九五八年三月二十四日」、古代エジプト遺跡の発掘現場で起きた奇跡と災厄を描く「ホルム・エル＝ハガルを訪れた王」など、幻想と寓意とアイロニーが織り成す全 18 篇を収録。

2020:1./ 257p

978-4-88588-100-8

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/03/01



十重大事故から読み解く山岳遭難の傷痕

羽根田 治 著

山と溪谷社

木曽駒の学校集団登山事故、愛知大学山岳部の遭難事故、立山の中高年凍死事故…。時代を反映した 10 件の山岳遭難事故を取り上げ、事故に内包された「影」の部分に光を当てつつ再検証。遭難事故回避のための教訓が得られる書。

2020:1./ 397p

978-4-635-17199-1

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/03/01、読売新聞 2020/03/22



ネガティブ・ケイパビリティ～答えの出ない事態に耐える力～(朝日選書 958)

糸木 蓬生 著

朝日新聞出版

ネガティブ・ケイパビリティとは、どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力のこと。小説家であり、臨床 40 年の精神科医である糸木蓬生が、この「負の力」を多角的に分析する。

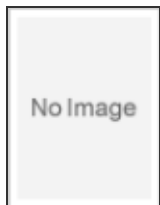
2017:4./ 254p

978-4-02-263058-2

本体 ¥1,300+税



毎日新聞 2020/03/15



アルプス登攀記(講談社学術文庫)

エドワード・ウィンパー、H.E.G.ティンダル 著

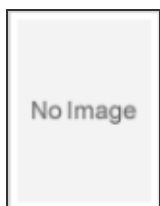
講談社

毎日新聞 2020/03/15

1998:5./ 552p

978-4-06-159329-9

本体 ¥1,400+税



それから 改版(新潮文庫)

夏目 漱石 著

新潮社

毎日新聞 2020/03/15

1990:1./ 302p

978-4-10-101005-2

本体 ¥460+税



沈黙 改版(新潮文庫)

遠藤 周作 著

新潮社

島原の乱が鎮圧されて間もないころ、キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル人司祭ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教のうめき声に接して苦悩し、ついに背教の淵に立たされる……。

2003:5./ 312p

978-4-10-112315-8

本体 ¥550+税



毎日新聞 2020/03/15



シーシュポスの神話 改版(新潮文庫)
カミュ 著
新潮社
毎日新聞 2020/03/15

2006.9./ 257p
978-4-10-211402-5
本体 ¥550+税
* 9 7 8 4 1 0 2 1 1 4 0 2 5 *



古くてあたらしい仕事
島田 潤一郎 著
新潮社
?をつかない。裏切らない。ぼくは具体的なだれかを思って、本をつくる。それしかできない。ひとり出版社「夏葉社」の10年が伝える、働き方と本の未来。

2019.11./ 218p
978-4-10-352961-3
本体 ¥1,800+税
* 9 7 8 4 1 0 3 5 2 9 6 1 3 *

毎日新聞 2020/03/15



オープンダイアログとは何か
医学書院
精神医療を刷新するアプローチ「オープンダイアログ」。その発展と普及に寄与してきたヤーコ・セイックラ教授の論文3本の翻訳をメインに、オープンダイアログの概略、実践の背景にある考え方、思想、具体的な手法を解説。

2015.6./ 205p
978-4-260-02403-7
本体 ¥1,800+税
* 9 7 8 4 2 6 0 0 2 4 0 3 7 *

毎日新聞 2020/03/15



女であるだけで
ソル・ケー・モオ 著
国書刊行会
夫を誤って殺した女が語った回想から浮かび上がったのは、理不尽で困難な事実の数々…。マヤ語先住民女性作家が、「社会的正義」をテーマに、ツォツィル族先住民女性の夫殺しと恩赦を、法廷劇的手法で描いたフェミニズム小説。

2020.2./ 246p
978-4-336-06565-0
本体 ¥2,400+税
* 9 7 8 4 3 3 6 0 6 5 6 5 0 *

毎日新聞 2020/03/15



これからの大学
松村 圭一郎 著
春秋社
大学のまだ見ぬ可能性とは。贈与としての<教える・学ぶ>行為とは。文化人類学者から、すべての「学ぶ」人に向けた、異色の教育論。「ほぼ日の学校」学校長・河野通和とのロング対談も収録。

2019.12./ 234p
978-4-393-37603-4
本体 ¥1,900+税
* 9 7 8 4 3 9 3 3 7 6 0 3 4 *

毎日新聞 2020/03/15



真鍋博の植物園と昆虫記(ちくま文庫 ま 47-3)
真鍋 博 著
筑摩書房
人気作家作品の装画や装幀の仕事で知られる天才イラストレーターが、社会のあらゆるものを<植物>と<昆虫>に見立て、ユーモアと風刺を織り込んで描いた40年前の幻の作品集を文庫化。各イラストに簡単な文章も掲載。

2020.1./ 339p
978-4-480-43644-3
本体 ¥1,100+税
* 9 7 8 4 4 8 0 4 3 6 4 4 3 *

毎日新聞 2020/03/15



ライオンのおやつ

小川 糸 著

ポプラ社

若くして余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内の島のホスピスで過ごすことを決めた。穏やかな景色の中、本当にしたかったことを考える雫。ホスピスでは毎週日曜日、入居者がリクエストできる「おやつの時間」があつて…。

2019:10./ 255p

978-4-591-16002-2

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/15



青のパティニール最初の風景画家

石川 美子 著

みすず書房

歴史の闇から浮かび上がった、16 世紀ネーデルラントの画家パティニール。その絵のきわめて独特な世界にわけいり、ヨーロッパにおける「風景」という概念の発生をとらえた、絵画と文学のハイブリッドな研究エッセー。

2014:12./ 299p,25p

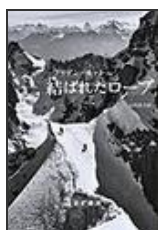
図版 16p

978-4-622-07844-9

本体 ¥5,000+税



毎日新聞 2020/03/15



結ばれたロープ

ロジェ・フリゾン=ロッシュ/フィリップ・クローデル 著

みすず書房

畜産や農業や林業で生計をたてながらも、山への情熱にかりたてられる若者たちが、困難や障害をのりこえて生きてゆく。すぐれた高山ガイドである著者が、卓越した描写力と山への愛によって作り上げた小説。

2020:2./ 11p,392p

978-4-622-08881-3

本体 ¥3,800+税



毎日新聞 2020/03/15



映し出されたアイヌ文化～英国人医師マンローの伝えた映像～

内田 順子 編

吉川弘文館

明治期に來日し、医療の傍ら北海道でアイヌ文化を研究し、記録した英国人医師マンロー。彼が記録した映画や写真資料で、アイヌの伝統的な儀式「イヨマンテ」、道具や衣服、祈りなどの習俗を紹介する。

2020:2./ 6p,152p

978-4-642-08363-8

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2020/03/15



ライト兄弟～イノベーション・マインドのカ～(草思社文庫 マ5-1)

デヴィッド・マカルー 著

草思社

1903 年 12 月 17 日、世界ではじめて有人の動力飛行に成功したライト兄弟。人類を地上から解き放つ革新技術を実現させた兄弟の苦闘と家族の愛情に支えられた足跡を、膨大な資料を駆使して描いた評伝。

2020:2./ 538p 図版

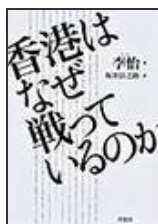
48p

978-4-7942-2442-2

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/15



香港はなぜ戦っているのか

李 怡 著

草思社

香港でなぜあれほどの騒乱が起こっているのか。そして、それは解決可能なのか。香港在住 70 年のベテランジャーナリストが、中国の圧迫が生んだ「香港人意識」の高揚に光を当て、「一国二制度」の欺瞞に満ちた実態を暴く。

2020:3./ 260p

978-4-7942-2445-3

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/03/15



宣教と適応～グローバル・ミッションの近世～

齋藤 晃 編

ギジェルモ・ウィルデ／折井 善果／新居 洋子／中砂 明德／真下 裕之／岡田 裕成／小谷 訓子／岡 美穂子／網野 徹哉／鈴木 広光／王寺 賢太 著
名古屋大学出版会

大航海時代から啓蒙時代にかけて、アジアやアメリカに派遣されたイエズス会士らは、現地社会に適応することで布教を試みる。だが、それは難問の蓋を開けることだった。異文化適応を軸に基督教の世界宣教の全体像に迫る。

毎日新聞 2020/03/15

2020:2./ 8p,522p,18p
978-4-8158-0977-5

本体 ¥6,800+税



チョウが語る自然史～南九州・琉球をめぐる～

福田 晴夫 著

南方新社

チョウたちはいつ、どこから来て、どうなったか？日本列島形成史、気候変動、植物相の変遷、ヒトの攪乱史なども採り入れつつ、謎を解き明かす。チョウの故郷を訪ねてアジア、熱帯にまで範囲を広げた 60 余年の研究の集大成。

毎日新聞 2020/03/15

2020:2./ 322p

978-4-86124-413-1

本体 ¥2,800+税



いのちを刻む～鉛筆画の鬼才、木下晋自伝～

木下 晋、城島 徹 著

藤原書店

人間存在の意味とは何か、私はなぜ生きるか。ハンセン病元患者、瞽女…。彼らを描くモノクロームの鉛筆画の徹底したリアリズムから人間への愛が溢れ出す。鉛筆画の世界を切り拓いてきた画家が、少年時代から現在までを語る。

毎日新聞 2020/03/15

2019:12./ 297p 図版
16p

978-4-86578-253-0

本体 ¥2,700+税



女性たちの保守運動～右傾化する日本社会のジェンダー～

鈴木 彩加 著

人文書院

「家族」「性差」を強調する保守に、その社会的抑圧を経験した女性が、なぜ合流するのか。女性たちの保守運動が成立している要因を、保守運動内部のジェンダー構造と運動外部の社会構造に着目しながら考察する。

毎日新聞 2020/03/15、朝日新聞 2020/03/21

2019:12./ 342p

978-4-409-24128-8

本体 ¥4,500+税



忘れられた日本人(ワイド版岩波文庫 160)

宮本常一 著

岩波書店

毎日新聞 2020/03/22

1995:2./ 334p

978-4-00-007160-4

本体 ¥1,300+税



木簡古代からの便り

奈良文化財研究所 編

岩波書店

古代人の日常が見えてくる。泥まみれで地中から見つかる文字の書かれた木片、木簡。日々解読に取り組むエキスパートたちが、研究の醍醐味や木簡の奥深い世界を紹介する。『朝日新聞』土曜版 be 連載をもとに単行本化。

毎日新聞 2020/03/22

2020:2./ 11p,161p

978-4-00-025325-3

本体 ¥1,800+税





鑑賞季語の時空(角川俳句コレクション)

高野 ムツオ 著

KADOKAWA

季語によって感動の瞬間を永遠化することで、俳句は過去から未来へと読み継がれていく。俳人・高野ムツオが、3.11 以後の視点で俳句・短歌約 230 作品を読み解く。巻末に掲載句・掲載歌索引付き。『俳句』連載を再編集。

2020:1./ 253p

978-4-04-884274-7

本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2020/03/22



有田川(講談社文芸文庫 あ M2)

有吉 佐和子 著

講談社

有田川の氾濫のたびに出自を失いながら、流れ着いた先で新たな生を?み取る紀州女・千代の数奇な生涯を描く。「紀ノ川」「日高川」に並ぶ、有吉文学における紀州三部作。

2014:5./ 516p

978-4-06-290229-8

本体 ¥1,900+税



毎日新聞 2020/03/22



役者ほど素敵な商売はない

市村 正親 著

新潮社

今だから話せる、あの時の真実-。「オペラ座の怪人」ファントム誕生秘話から、劇団四季退団の真相、突然のがん闘病まで、演劇界のレジェンド・市村正親が激しい舞台人生を語る。

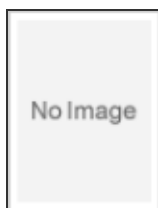
2020:1./ 203p

978-4-10-353121-0

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/22



陽暉楼(中公文庫)

宮尾登美子 著

中央公論新社

毎日新聞 2020/03/22

1979:9./ 408p

978-4-12-200666-9

本体 ¥602+税



サル化する世界

内田 樹 著

文藝春秋

「今さえよければ自分さえよければ、それでいい」という“サル化”が進む社会で、人口減少問題から AI 時代の教育までを論じる。堤未果との対談も収録。ブログや各種媒体に掲載したものを書籍化。

2020:2./ 326p

978-4-16-391153-3

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/22



東京、はじまる

門井 慶喜 著

文藝春秋

江戸を壊し“東京”を建てねば、この国はほろびる-。江戸から東京へ、急速に近代化する街の形を決定づけた建築家・辰野金吾。今日につながる景色を創った男の野心と葛藤を描く。『別冊文藝春秋』連載を改題し単行本化。

2020:2./ 423p

978-4-16-391171-7

本体 ¥1,800+税



毎日新聞 2020/03/22



無私の日本人(文春文庫 い 87-3)

磯田 道史 著

文藝春秋

武士にお金を貸し、利子で郷里を潤すという事業を成し遂げた穀田屋十三郎をはじめ、儒学者・中根東里、歌人・大田垣蓮月という江戸時代を生きた3人の評伝を通し、日本人の「無私の精神」を描く。

2015/6./ 375p

978-4-16-790388-6

本体 ¥630+税



毎日新聞 2020/03/22



フェデラーの瞬間

デイヴィッド・フォスター・ウォレス 著

河出書房新社

ナダルとの伝説的な死闘を分析しつつ、テニスの本質を体現するフェデラーの魅力を精緻に綴った表題作をはじめ、卓越した洞察力と縦横無尽なレトリックでテニスを楽しむ傑作エッセイ集。全5編を収録。

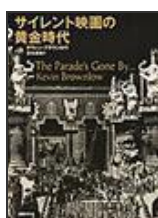
2020/2./ 282p

978-4-309-20791-9

本体 ¥3,200+税



毎日新聞 2020/03/22



サイレント映画の黄金時代

ケヴィン・ブラウンロウ、宮本 高晴 著

国書刊行会

サイレント映画の巨大な謎を解き明かす名著を邦訳。スターや名監督を紹介するとともに、プロデューサー、脚本家、カメラマン、字幕作者など映画を陰で支えたスタッフも取り上げる。サイレント期アメリカ映画人名事典付き。

2019/12./ 877p,26p

978-4-336-06537-7

本体 ¥8,800+税



毎日新聞 2020/03/22



古代ローマ名将列伝

エイドリアン・ゴールズワーシー、阪本 浩 著

白水社

戦争はいかにローマ史に影響を与え、ローマ国家の変化はいかに戦争を変えたか。ポエニ戦争の将軍たちから、カエサル、ベリサリウスまで、15人の軍司令官とその象徴的な戦いを時代背景ごとに描く、軍事から見たローマ史。

2019/12./ 521p,47p

978-4-560-09739-7

本体 ¥5,200+税



毎日新聞 2020/03/22



猫には負ける

佐々木 幹郎 著

亜紀書房

なぜ猫が愛しいのか、なぜ、こんなヤツが可愛いのか。半野良生活を送るメスの三毛猫との、かけがえのない時間を詩人が綴る。古今東西の「猫詩」も紹介。亜紀書房ウェブマガジン『あき地』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2020/2./ 175p

978-4-7505-1635-6

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/22



つくるたべるよむ

本の雑誌編集部 編

本の雑誌社

漫画家・久住昌之、料理漫画の祖・ビッグ錠、文筆家・木村衣有子、カレー研究家・水野仁輔…。各界の名手に、食と本にまつわるあれこれをインタビュー。「食」に浸るエッセイ&論考も多数収録する。

2020/3./ 205p

978-4-86011-436-7

本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/03/22



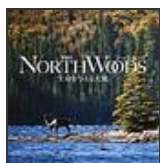
花狩
田辺 聖子 著
清流出版

おタツはどうも情愛だけがこの世でいちばんあとまで生き残る価値のあるもののように思えてならなかった?。骨までとろけそうな半次郎への恋情。男の足をすくうほど烈しいおタツの娘ごころを描く長編小説。

2010.5./ 293p
978-4-86029-318-5
本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/22



ノースウッズ～生命を与える大地～
大竹 英洋 著
クレヴィス

太古から人と自然の物語が紡がれてきた世界最大級の原生林、ノースウッズ。カナダ初の世界複合遺産「ピマチオウィン・アキ」を含む恵みの大地で、旅をつづける写真家の眼と心に映ったものとは? 撮影 20 年の集大成。

2020.2./ 215p
978-4-909532-37-4
本体 ¥2,500+税



毎日新聞 2020/03/22



不安定化する世界～何が終わり、何が変わったのか～(朝日新書 758)
藤原 帰一 著
朝日新聞出版

新冷戦の兆しに包まれた不穏な世界。これから何が始まるのか。民主主義の後退、敵と味方の不寛容な対立、所得格差の拡大と中間層の穏やかな没落…。日本と世界が置かれている同時代的な意味を探る。『朝日新聞』連載を新書化。

2020.3./ 309p
978-4-02-295064-2
本体 ¥890+税



毎日新聞 2020/03/28



仮往生伝試文(講談社文芸文庫 ふ A8)
古井 由吉 著
講談社

平安の極楽往生譚を生きた古人の日常から、中山競馬場へ、人間の営みは時空の切れ目なくつながっていく。今昔の死と生を往還し、虚と実、夢と現を果てしなく越境して文学の無限の可能性を尽くした戦後文学の金字塔。

2015.7./ 505p
978-4-06-290278-6
本体 ¥2,000+税



毎日新聞 2020/03/28



ゆらぐ玉の緒
古井 由吉 著
新潮社

陽炎の立つ中で感じるのも、眠りの内のゆらめきの、余波のようなものか…。往還する時間のあわいに浮かぶ生の輝き、ひびき渡る永劫。一生を照らす、生涯の今を描く古井文学の集大成。全 8 篇を収録。『新潮』掲載を単行本化。

2017.2./ 216p
978-4-10-319211-4
本体 ¥1,700+税



毎日新聞 2020/03/28



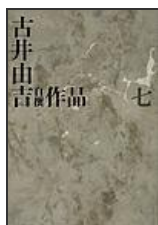
銀座界隈ドキドキの日々(文芸春秋)
和田 誠 著
文芸春秋

銀座が街の王様で、僕はデザイナー一年生だった一憧れのデザイン業界での修業時代を文章と懐かしいデザインで綴った 60 年代グラフィティ。講談社エッセイ賞受賞。

1997.1./ 324p
978-4-16-738504-0
本体 ¥640+税



毎日新聞 2020/03/28



古井由吉自撰作品<7> 楽天記／忿翁

古井 由吉 著

河出書房新社

不意に口を開ける異界の亀裂、狂気と変身を孕んだ強烈なユーモア…。連作短篇に新たな命を吹き込んだ「楽天記」、世紀を超えますます自在な世界を定着した「忿翁」を収録。島田雅彦による解説も掲載。

2012:7./ 392p

978-4-309-70997-0

本体 ¥3,400+税



毎日新聞 2020/03/28



三島由紀夫(Century Books 人と思想 197)

熊野 純彦 著

清水書院

多くの作品を遺して壮絶な最期を遂げた三島由紀夫。最後の傑作「豊饒の海」にいたる、主要作品の系列を読みなおすことで、その政治的行動の背後にある、作家・三島由紀夫の生と思考の軌跡を明らかにする。

2020:2./ 276p,6p

978-4-389-42197-7

本体 ¥1,200+税



毎日新聞 2020/03/28



毎日新聞・校閲グループのミスがなくなるすごい文章術

岩佐 義樹 著

ポプラ社

企画書、メール、履歴書、試験、ブログ…。今すぐ役立つ! より正確に、より伝わる文章を書くために気を付けてほしい点を、『毎日新聞』の校閲記者が解説する。人気校閲 Twitter を書籍化。

2017:3./ 255p

978-4-591-15439-7

本体 ¥1,300+税



毎日新聞 2020/03/28



スミス・マルクス・ケインズ～よみがえる危機の処方箋～

ウルリケ・ヘルマン 著

みすず書房

経済危機はなぜ起こるのか。貧富の差はなぜ固定するのか。お金の役割は-。スミス「国富論」、マルクス「資本論」、ケインズ「一般理論」のポイントと彼らの時代を記述し、逆説に満ちた資本主義というシステムを明らかにする。

2020:2./ 393p,11p

978-4-622-08867-7

本体 ¥3,600+税



毎日新聞 2020/03/28



脱プラスチックへの挑戦～持続可能な地球と世界ビジネスの潮流～

堅達 京子、NHK BS1 スペシャル取材班 著

山と溪谷社

なぜ世界は脱プラスチックに積極的なのか。日本企業の動きは? 持続可能な地球と世界のビジネスの潮流を、数々の貴重な証言や驚きの事実と共に伝える。NHK BS1 スペシャル「“脱プラスチック”への挑戦」を単行本化。

2020:1./ 293p

978-4-635-31041-3

本体 ¥1,500+税



毎日新聞 2020/03/28



戦国、まずい飯!(インターナショナル新書 048)

黒澤 はゆま 著

集英社インターナショナル

生米を水に浸すよう指示した徳川家康、?油が欲しいと言って叱られた井伊直政、逃避行中に雑草を食べた真田信之…。さまざまな文献を渉猟し、戦国の食にまつわる面白エピソードを紹介。文献に登場する料理も再現し実食する。

2020:2./ 221p

978-4-7976-8048-5

本体 ¥840+税



毎日新聞 2020/03/28



イスラーム学

中田 考 著

作品社

イスラームの世界観を背景に激動する国際政治を俯瞰するための基本的視座を提供し、井筒俊彦が切り拓いた東洋哲学としてのイスラーム理解に新たな一歩を進める。

2020:1./ 581p

978-4-86182-778-5

本体 ¥5,400+税



毎日新聞 2020/03/28



Cotton Fields(TWJ BOOKS)

長濱 治、ピーター・バラカン 著

トランスワールドジャパン

写真家・長濱治氏がブルーズの聖地・アメリカ南部でブルーズマンの素顔を撮影し、ピーター・バラカンがテキストを書き下ろしたビジュアル&サウンドブック。伝説のブルーズマンの音源を試聴できる Spotify コード付き。

2020:2./ 1冊(ページ付なし)

978-4-86256-275-3

本体 ¥4,500+税



毎日新聞 2020/03/28



生活考察<Vol.07>

辻本 力 編

タバックス

話題の書き手たちの生活エッセイを多数収録し、読書界の注目を集める“ある種の”ライフスタイル・マガジン。小説家、画家、ミュージシャン……etc. 今号も豪華でバラエティ豊かな書き手が揃いました!

2019:11./ 125p

978-4-907053-38-3

本体 ¥1,000+税



毎日新聞 2020/03/28



“山”と“谷”を楽しむ建築家の人生

山崎 健太郎／西田 司／後藤 連平 編

ユウブックス

アトリエ事務所として独立してからの収入は。そのときいくらの貯金があったのか。どのようにプロジェクトを進め、どのような働き方をしているのか。設計事務所を構える建築家7人が、学生の疑問に答えるべく、その生活を語る。

2020:2./ 331p

978-4-908837-07-4

本体 ¥2,200+税



毎日新聞 2020/03/28